

目 次 (3年生)

科 目	学科・コース	ページ番号
現代文B	(特別進学コース I・II類)	1, 2
現代文B	(進学コース)	3, 4
現代文B	(生活教養科)	5, 6
古典B	(特別進学コース I・II類)	7, 8
古典B	(進学コース)	9, 10
現文A 演習	(総合コース)	11, 12
現文B 演習	(特別進学コース I・II類)	13, 14
国語演習	(総合コース)	15, 16
世界史A	(生活教養科)	17, 18
世界史B	(特別進学コース I・II類)	19, 20
日本史B	(進学・総合コース)	21, 22
日本史演習	(特別進学コース I・II類)	23, 24
日本史演習	(進学コース)	25, 26
政治・経済	(特別進学コース I・II類)	27, 28
政治・経済	(進学・総合コース)	29, 30
現社演習	(特別進学コース I・II類)	31, 32
数学III	(特別進学コース I・II類)	33, 34, 35, 36
数学A	(生活教養科)	37, 38
数学B	(進学コース)	39, 40
数学活用	(総合コース)	41, 42
数II 演習	(特別進学コース I・II類)	43, 44
数II 演習	(進学コース)	45, 46
数II 演習②	(特別進学コース I・II類)	47, 48
物理	(特別進学コース I・II類)	49, 50
化学基礎	(生活教養科)	51, 52
化学	(特別進学コース I・II類)	53, 54
生物	(特別進学コース I・II類)	55, 56
化基演習	(進学コース)	57, 58
生基演習	(進学コース)	59, 60
生基演習	(生活教養科)	61, 62
理科演習	(総合コース)	63, 64
体育	(全)	65, 66
体育	(全)	67, 68
コミュニケーション英語	(特別進学コース I・II類)	69, 70
コミュニケーション英語	(特別進学コース I・II類)	71, 72
英語表現 I	(生活教養科)	73, 74
英語表現 II	(特別進学コース I・II類)	75, 76
英語表現 II	(進学コース)	77, 78
英語会話	(総合コース)	79, 80
英語会話	(生活教養科)	81, 82
コミュII 演習	(進学コース)	83, 84
コミュII 演習	(総合コース)	85, 86
ビジネス基礎	(総合コース)	87, 88
譲歩処理	(総合コース)	89, 90
課題研究	(生活教養科)	91, 92
子どもの発達と保育	(生活教養科保育コース)	93, 94
生活と福祉	(総合コース)	95, 96
フードデザイン	(生活教養科保育コース)	97, 98
食文化	(総合コース)	99, 100
調理	(生活教養科フードコース)	101, 102
栄養	(生活教養科フードコース)	103, 104
保育技術	(生活教養科保育コース)	105, 106
コミュニケーション技術	(生活教養科保育コース)	107, 108
BUPラン	(総合コース)	109, 110

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	2単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ類・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>① 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する。</p> <p>② 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。</p> <p>③ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。</p> <p>④ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。</p> <p>⑤ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。</p> <p>⑥ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。</p> <p>⑦ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</p> <p>⑧ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>*観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>*評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <p>①小テスト・定期考査の成績</p> <p>②出席、授業態度</p> <p>③課題提出</p> <p>④ノート作成</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</p> <p>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『現代文B』『現代文B学習課題ノート』 明治書院</p> <p>『新版チャレンジ常用漢字』 第一学習社</p> <p>『クリアカラー国語便覧』 数研出版</p> <p>国語辞典</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	評論 「グローバリゼーションの光と影」 「異文化理解」	<ul style="list-style-type: none"> ・評論における論理の構築や、展開・構成を捉える。 ・各作品の季節感や情景、心情や主題を考える。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の内容を正確に読み取り、自分なりの論旨をまとめる力をつけることができる。 ・語句の意味や用法を的確に理解することができる。
5	小説 「檸檬」	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の行動や心理の変化を正確に読み取る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の焦燥や倦怠は、一個の檸檬の存在という幻想によってどのように変化しえたかを具体的なイメージとして想像する。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・独特な感覚表現や比喻の特徴的な部分を抜き出させ、その表現効果について考える。 	8	
	演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文を書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・課題文を理解し、それに対する意見文を書くことができる。
7			8	
8	評論 『『である』ことと『する』こと』	<ul style="list-style-type: none"> ・「である」と「する」ことの二つの基準によって、対象となる現実がどのように分析されているか、読み取る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を正確に読み取り、単なる論理の問題ではなく、現実の事象にあてはめて理解する。
9			8	
	演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題に慣れ、時間内に正確に解答する。
10	「記録すること、表現すること」 「ことばが通じない、ということ」	<ul style="list-style-type: none"> ・論旨を的確に捉える。 ・筆者の主張を正確に捉えることにより読解力の向上を図る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な論点と従属的な部分とが識別できる。 ・表現の主体である「私」が対象を記録し表現することの問題点を読み取ることができる。 ・言語を超えてじかに触れ合うことの大切さを読み取ることができる。
11	演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題に慣れ、時間内に正確に解答する。
12			6	
1			6	
2	演習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験に向けて問題演習に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の形式に慣れ、時間内に正確に解答する。

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第3学年（普通科進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。 ③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。 ④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。 ⑧ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート作成 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 				
教科書・教材等	『標準現代文B』『標準現代文B学習課題集』 第一学習社 『新版チャレンジ常用漢字』 第一学習社 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	ワスレナグサ	・随想の読解のしかたを習得し、文章の構成の特徴について理解する。	9	・文章の構成について理解している。 ・自然と人間とのかかわりについて書かれた他の文章を読み、より深い作品理解に努めている。
5	食と想像力	・日本とタイ、猫と人間という対比から筆者の考えを読み取る。	12	・具体例が本文の展開にどのようにかかわっているか理解している
6	話を聞かせて ひよこの眼	・現代の短編小説を読解し、作品の構成の特徴、心情の変化を理解する。 ・語り手の視点の意識、登場人物の心理の変化を読み取る。	12	・酒屋と居酒屋という二つの場面の役割と、場面転換の特徴について理解している。 ・回想形式で始まる構成の特徴を理解している。 ・語り手の視点を意識し、登場人物の心理の変化をつかんでいる。
7 8	思い込みの危険性 物語を発現する力	・論理的な文章を読解し、具体例と抽象的な記述との関係を理解する。 ・「五コマ漫画」や「八つのシーン」を見て「物語」をつくり、発表する。	12	・筆者の主張に迫り、自身が物事に取り組む際の姿勢について考えている。 ・慣用表現の用法について正しく理解している。 ・筆者が考える「物語を発現する力」の意味について理解している。
9	食事 こころ (萩原朔太郎) 日本海	・現代詩の鑑賞のしかたを習得し、各連の内容をつかみ、連ごとの展開を理解する。 ・経験と自己認識との関係について理解し、経験に学ぶことの重要性についてまとめる。	12	・詩の視点の特徴や発想のおもしろさについて理解している。 ・作者の他の作品を読み、より深い作品理解に努めている。
10	経験の教えについて	・伝統的な社会と近代における「デモクラシー」の違いを理解する。	12	・論の展開のしかたを理解し、論旨を的確に把握している。 ・指示語、接続語について正しく理解している。
11	〈私〉時代のデモクラシー	・まとまった分量のある小説を読解し、場面ごとの登場人物の心情の変化を読み取る。	12	・筆者の主張に迫り、民主主義について思索を深めている。 ・評論に特徴的な語句の意味の理解を深めている。
12	卒業	・少年の一人語り形式の効果について考える。	9	・場面ごとの登場人物の心情を的確に読み取っている。 ・比喩的な表現の意味を正しく理解している。
1	バグダッドの靴磨き 折々のうた	・評論の形をとった文章の読解を通して、近代短歌・近代俳句の鑑賞のしかたを習得する。 ・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得する。	9	・戦争に巻き込まれた子供の心情に迫り、自己の問題として考えている。 ・作品と鑑賞文との対応関係を理解している。 ・短歌・俳句独特の表現方法や効果を理解している。
2	新しい博物学を 山椒魚 山月記	・すぐれた短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞法を習得する。 ・漢文脈を駆使した独特の表現を理解する。	9	・筆者の主張に迫り、現代の科学の抱える問題について、思索を深めている。 ・場面ごとの山椒魚の心情の変化を理解し、作中の物事がどのようなことを象徴しているかを理解している。 ・主人公の変身にこめられた意味を考え、この小説の主題をつかんでいる。

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降のさまざまな文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ② 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。 ③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。 ④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。 ⑨ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート作成 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 				
教科書・教材等	『標準現代文B』『標準現代文学習課題集』 第一学習社 『新版チャレンジ常用漢字』 第一学習社 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	ワスレナグサ	・随想の読解のしかたを習得し、文章の構成の特徴について理解する。	9	・文章の構成について理解している。 ・自然と人間とのかかわりについて書かれた他の文章を読み、より深い作品理解に努めている。
5	食と想像力	・日本とタイ、猫と人間という対比から筆者の考えを読み取る。		・具体例が本文の展開にどのようにかかわっているか理解している
6	話を聞かせて	・現代の短編小説を読解し、作品の構成の特徴、心情の変化を理解する。	12	・酒屋と居酒屋という二つの場面の役割と、場面転換の特徴について理解している。
	ひよこの眼	・語り手の視点の意識、登場人物の心理の変化を読み取る。 ・論理的な文章を読解し、具体例と抽象的な記述との関係		・回想形式で始まる構成の特徴を理解している。 ・語り手の視点を意識し、登場人物の心理の変化をつかんでいる。
7	思い込みの危険	性を理解する。	12	・筆者の主張に迫り、自身が物事に取り組む際の姿勢について考えている。
8	物語を発現する力	・「五コマ漫画」や「八つのシーン」を見て「物語」をつくり、発表する。 ・現代詩の鑑賞のしかたを習得し、各連の内容をつかみ、連ごとの展開を理解する。	12	・慣用表現の用法について正しく理解している。 ・筆者が考える「物語を発現する力」の意味について理解している。
9	食事 こころ (萩原朔太郎)	・経験と自己認識との関係について理解し、経験に学ぶことの重要性についてまとめる。		・詩の視点の特徴や発想のおもしろさについて理解している。 ・作者の他の作品を読み、より深い作品理解に努めている。
10	経験の教えについて	・伝統的な社会と近代における「デモクラシー」の違いを理解する。	12	・論の展開のしかたを理解し、論旨を的確に把握している。 ・指示語、接続語について正しく理解している。
11	〈私〉時代のデモクラシー	・まとまった分量のある小説を読解し、場面ごとの登場人物の心情の変化を読み取る。	12	・筆者の主張に迫り、民主主義について思索を深めている。 ・評論に特徴的な語句の意味の理解を深めている。
12	卒業	・少年の一人語り形式の効果について考える。	9	・場面ごとの登場人物の心情を的確に読み取っている。 ・比喩的な表現の意味を正しく理解している。
1	バグダッドの靴磨き	・評論の形をとった文章の読解を通して、近代短歌・近代俳句の鑑賞のしかたを習得する。	9	・戦争に巻き込まれた子供の心情に迫り、自己の問題として考えている。 ・作品と鑑賞文との対応関係を理解している。
	折々のうた	・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得する。		・短歌・俳句独特の表現方法や効果を理解している。
2	新しい博物学を	・すぐれた短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞法を習得する。		・筆者の主張に迫り、現代の科学の抱える問題について、思索を深めている。
	山椒魚	・漢文脈を駆使した独特の表現を理解する。		・場面ごとの山椒魚の心情の変化を理解し、作中の物事がどのようなことを象徴しているかを理解している。 ・主人公の変身にこめられた意味を考え、この小説の主題をつかんでいる。
	山月記			

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文・漢文を読解し鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ② 文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。 ③ 作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。 ④ 文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。 ⑤ 音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。 ⑥ 古典を読んで、日本文化の特筆や日本文化と中国文化の関係について考える。 ⑦ 大学入試に向けて問題演習を行う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>*観点は以下の5点 ①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>*評価方法（以下を考慮し総合的に行う。） ①小テスト・定期考査 ②出席状況・授業態度 ③課題提出 ④ノート作成</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ①予習は原文をノートに写し、現代語訳する。（難解語句は辞書で調べる。） ②授業では、自分の現代語訳との対比をして、重要箇所をしっかりと理解する。さらに説明の要点をノートにまとめる。 ③復習は文法事項を確認し、暗記する。学習課題ノート（副教材）を用いて内容を整理する。 				
教科書・教材等	『精選古典 古文』・『精選古典 漢文』（教育出版） 『精選古典 古文 学習課題ノート』・『精選古典 漢文 学習課題ノート』教育出版 『古典文法ベーシックノート』 文英堂 『改訂版漢文重要語マスターノート』『古文単語マスター333』数研出版 『クリアカラー国語便覧』数研出版 古語辞典・漢和辞典				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 『枕草子』を読む ・宮に初めて参りたる頃	・『枕草子』の内容や構成、また作品の背後を支える貴族の教養や社会情勢等について学ぶ。	9	・連想の面白さを味わうとともに、その基盤ある筆者の教養について理解する。
5		・登場人物の人物像を把握する。	12	・基本的な語句や助詞、助動詞について理解する。
6		・敬語や助動詞等について学ぶ。	12	・平安朝の貴族の生活について関心を持つ。
	漢文 『史記』 ・完璧帰趙 ・滎池之会 ・勿頸之交	・中国の戦国時代の歴史を把握する。	12	・「戦国の七雄」について理解する。
		・『史記』と司馬遷について学ぶ。	12	・中国の歴史書と司馬遷について理解する。
		・使役、抑揚、二重否定、選択、比較、反語等の句型を学び、内容を把握する。	12	・語句の意味や句型を理解し、正しく口語訳する。
	演習問題	・物語の展開に即して正しく口語訳する。	12	・物語の内容を、展開に即して的確に捉える。
7		・入試に向けて問題演習に取り組む。	12	・廉頗と藺相如の人物像を把握し、『史記』のおもしろさを味わう。
8			12	・入試問題に慣れ、時間内に正確に解答する。
9	古文 『大鏡』を読む ・雲林院の菩提講	・『大鏡』の文学史上の要点を学ぶ。		
		・登場人物と場面状況を的確に捉える。		
	・わかき日の道長	・平安朝の人間ドラマを現代と合わせて鑑賞する。		
		・平安朝の宮中での女性たちについて学ぶ。		
10		・紫式部と『源氏物語』の文学史上の要点を学ぶ。	12	・『大鏡』の文学的特質を理解する。
	『源氏物語』を読む	・敬語表現を学ぶ。		・各段の内容を的確に捉える。
		・登場人物と人間関係について把握し、心理や行動を読みとる。		・敬語表現を理解する。
	・藤壺の入内	・入試に向けて問題演習に取り組む。		・藤原氏と天皇との人間関係を理解する。
11			9	・登場人物の人物像と心情を理解する。
12			9	
1	演習問題		9	・試験の形式に慣れ、時間内に正確に解答する。
2				

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3単位
対象学年	第3学年（普通科進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>古典としての古文・漢文を読解し、鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、人生を豊かにする態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>① 第2学年の学習を継続する。</p> <p>② 古文及び漢文を読解し鑑賞するため、読み、語句、文法、表現上の特色を理解する。</p> <p>③ 古典に親しみ、思想、感情、有職故実を通して、ものの見方、感じ方を豊かにし、日本文化や中国文化との関係を考える。</p> <p>④ 生徒の関心や学習意欲を喚起させる教材を選択し、場合によって副教材を用意する。入学試験や就職試験などに向けて問題演習を行う</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>* 観点は以下の5点 ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法（以下を考慮し総合的に行う。） ① 小テスト・定期考査の成績 ② 出席、授業態度 ③ 課題提出 ④ ノート作成</p>				
学習方法	<p>○予習 ・原文をノートに写し、難解語句を辞書で調べて現代語訳する。 ・音読を繰り返す。</p> <p>○授業 ・自分の現代語訳と対比し、重要箇所を理解する。 ・説明の要点をノートに書く。</p> <p>○復習 ・文法事項はまず理解し、次に暗記する。 ・興味関心のある点を調べてみる。</p>				
教科書・教材等	<p>『精選古典B』 三省堂 『精選古典B 学習課題ノート』三省堂 『古典文法ベーシックノート』文英堂 古語辞典、漢和辞典</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	清少納言「枕草子」	・筆者の美意識やものの見方を読み、当時の宮廷生活も理解する。	9	・内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活を理解しようとしている。 ・筆者の美意識や機知を読み取っている。
5	「三国志」の世界	・話の内容を的確に読み、登場人物の心情・人間像を読み比べる。	12	・それぞれの場面に描かれた人間像を読み比べようとしている。
6	紫式部「源氏物語」	・登場人物の心情を読み取り、『源氏物語』への理解を深める。	12	・登場人物の言動や心理を的確に読み取っている。 ・物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』をより深く知ろうとしている。
7	漢詩（古体詩）	・漢詩の構成などについて理解する。	12	・登場人物の心情を場面に応じて読み取っている。 ・漢詩に描かれた人物や情景・心情などを表現に即して味わおうとしている。
8	藤原道綱母「蜻蛉日記」	・作者の生活や心情を読み取るとともに、当時の社会制度を理解する。	12	・作者の生活や心情を読み取るとともに、平安女流日記文学の特徴を理解しようとしている。
9	和泉式部「和泉式部日記」 紫式部「紫式部日記」	・贈答歌を通して男女の心情を読み、表現上の特徴を理解する。	12	・贈答歌を通して男女の心情を読み取るとともに、表現上の特徴を理解しようとしている。 ・比喻表現に気をつけ、作者の心情を理解している。
10	李復言「杜子春伝」 「大鏡」	・作者のものの感じ方や洞察力を読み取り、その心情を理解する。 ・話の展開を整理し、日本の近代文学と読み比べる。	12	・風景や人物に対する作者の感じ方や洞察力を理解しようとしている。 ・作者のものの感じ方を通して、心情を理解している。 ・登場人物の言動や心理などを的確に読み取り、杜子春の人間性を理解している。
11	司馬遷「史記」	・歴史物語の特徴と文学史的意義の理解。	12	・基本的な句法・語法を理解している。 ・登場人物の境遇を読み取るとともに、歴史物語の特徴を理解しようとしている。
	紀貫之「古今和歌集仮名序」	・歌論を読み、筆者の和歌に対する感じ方や考え方を理解する。	12	・著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとしている。 ・和歌に対する筆者の感じ方や考え方を理解しようとしている。
12	鴨長明「無名抄」	・「おもて歌」についての考え方を読み取り、和歌を鑑賞する。	9	・筆者の主張を的確に読み取っている。 ・「おもて歌」についての考え方を理解しようとしている。
1	柳宗元「捕蛇者説」	・筆者の論旨を的確に理解する。	9	・和歌を鑑賞し、俊恵の主張を読み取っている。 ・この文章を書いた意図を理解しようとしている。
2	蘇軾「赤壁賦」	・情景や叙情の描写の美しさを味わい、作者の人生観を理解する。	9	・筆者が考える幸福と政治の本質を読み取っている。 ・唐宋八大家について理解している。
	上田秋成「雨月物語」	・近世小説の話の展開を理解し、人間の生き方について考えを深める。	9	・この文章に見られる作者の人生観を理解しようとしている。 ・作品の読解を通して、人間の生き方について考えようとしている。
	白居易「長恨歌」	・日本文化と中国文化の関係について考える。	9	・作者の詩情を読み味わおうとしている。 ・男女の愛の浪漫性と永遠性を読み取っている。 ・「長恨歌」の文学史的意義を理解している。

教科名	国語	科目名	現代文A演習	単位数	3単位
対象学年	第3学年（普通科・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ③ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。 ③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。 ④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。 ⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。 ⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。 ⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。 ⑩ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小テスト・定期考査の成績 ②出席状況、授業態度 ③課題提出 ④ノート作成 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 				
教科書・教材等	『現代文A』『現代文A 学習課題ノート』 東京書籍 『新版チャレンジ常用漢字』 第一学習社 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想・評論 「さくらさくらさくら」	・筆者独自のものの見方、「桜」に対する日本人独自の感覚を読み取る。	9	・「桜だけは別格」という主張が、さまざまな表現で本文全体にわたって述べられていることを読み取っている。 ・文章全体の構成や展開を確かめ、筆者の意図を捉えている。
5	小説 「山椒魚」	・山椒魚や蛙の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。	12	・情景、心理描写から、登場人物の心の動きを的確に読み取ることができる。 ・山椒魚の悲しみの理由を把握している。
6	随想・評論 「最初のペンギン」	・「最初のペンギン」が持つ意義を通じて、不確実さを乗り越えるための方法について考える。	12	・「最初のペンギン」が持つ意味について、考えを深めようとしている。 ・論点の関係を捉えることで要旨を把握しながら、文章を読んでいる。
6	小説 「こころ」	・場面の展開と「私」とKの関係、Kの心理と人間性を理解する。	12	・文学作品に関心を持って取り組みことができる。 ・「私」とKの関係、物語の展開とそれぞれの心理と人間性を的確に読み取ることができる。
7	随想・評論		12	
8	「もう一つの知性」	・情報化社会について、筆者の批判的な考えを理解する。	12	・「情報化社会」への批判的意見、人間の知性のあり方に対する考えを正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。
9	「少女たちのヒロシマ」	・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える。	12	・石内都の写真集の視点を捉えている。 ・筆者の疑問と、その答えに出会ったことに着目し、筆者の思いを読み取っている。
10	随想・評論		12	・本文の内容を自分の問題として捉えて感想を持ち、他人の感想にも耳を傾けている。
11	「環境史」から考える	・明治時代の新聞予言をもとに筆者が述べようとしていることを理解する。	12	・明治時代の新聞の予言をもとにした筆者の意見、筆者の言う近代化の弊害を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。
12	小説 「山月記」	・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	9	・李徴の状況と心理状態、虎になって語る自己分析と心理を的確に理解している。 ・李徴の心情を、人間一般にかかわる問題として読み取っている。
1	「清兵衛と瓢箪」	・清兵衛が瓢箪に熱中する様子、それを咎める父や教員のありようを通じて、小説が体现している世界観について考える。	9	・登場人物の置かれて状況や考え方、心情の変化、場面の推移を理解し、人物の考え方とその変化を理解している。
2				・文体や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化を理解している。

教科名	国語	科目名	現代文B演習	単位数	1単位
対象学年	第3学年(特別進学コースI・II類)		履修形態	必修	
科目の目標	将来の進路選択や自立に備えて自己を確立し、2年生までに磨いた自己を表現する能力や読解力をさらに発展させていく。				
学習内容の概要	<p>①言語活動に必要な漢字・語彙を身につけ、文章の段落や場面について理解する。</p> <p>②文章中に表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。さらに、読み取った内容を整理して、全体の趣旨を理解できる。</p> <p>③具体と抽象、対比や同義の文章の構造を見抜く力を身につけ、筆者の主張を的確にとらえることができる。</p> <p>④問いのかたちを見抜き、問いの種類ごとに答え方を適宜使い分けることができる。</p> <p>⑤以上の点を踏まえながら問題演習に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>* 観点は以下の5点 ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法(以下を考慮し総合的に行う。) ① 小テスト・定期考査の成績 ② 出席, 授業態度 ③ 課題提出 ④ ノート作成</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、課題のプリントをしっかりと読み、難解な語句については、辞書で意味を調べておくなど、予習・復習共に取り組む。</p> <p>② 授業では、キーワードに注目し、本文の流れやかみほうのポイントが明確になるようにまとめる。</p> <p>③ 教材の区切りには、ノートを使って内容を整理し理解を深める。</p>				
教科書・教材等	読解・小論文など、様々な入試形態や形式に対応した問題プリント				

年間授業計画							
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等			
4	演習問題①	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力の強化を中心に、演習問題に取り組む。 ・現代文の文章読解、古典の基礎的な語彙、文章読解の問題に取り組む。 ・小論文模試を目標に、小論文や作文の演習に取り組む。 ・入試に向け、自己PR作文や志望動機作文に取り組む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの種類の問題をこなし、様々な出題形式に対応できるようにする。 ・小テストを数多く行い、実際の入試に備える。 ・書き慣れることを主眼とし、様々な教科の知識を有効に活用しながら、一つの文章を完成させる手順を身につけさせる。 ・進路指導との連携を図り、入試の小論文、作文、面接で使用するものを作成していく。特に、敬語や表記など、表現において確実に力を付けるようにする。 			
5			4				
6			4				
7			4				
8			4				
9			演習問題②		<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題に慣れ、時間内に正確に解答する。 ・敬語表現について理解する。 ・読解問題では登場人物の人物像と心情を理解する。
10						4	
11						4	
12	演習問題③	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 ・表現活用のまとめ、応用として、発表の取り組みをする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・試験の形式に慣れ、時間内に正確に解答する。 ・卒業後の生活で役立つような表現を心がける。 			
1			3				
2							

教科名	国語	科目名	国語演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	将来の進路選択や自立に備えて自己を確立し、2年生までに磨いた自己を表現する能力や読解力をさらに発展させていく。				
学習内容の概要	<p>①言語活動に必要な漢字・語彙を身につけ、文章の段落や場面について理解する。</p> <p>②文章中に表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。さらに、読み取った内容を整理して、全体の趣旨を理解できる。</p> <p>③具体と抽象、対比や同義の文章の構造を見抜く力を身につけ、筆者の主張を的確にとらえることができる。</p> <p>④問いのかたちを見抜き、問いの種類ごとに答え方を適宜使い分けることができる。</p> <p>⑤以上の点を踏まえながら問題演習に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>* 観点は以下の5点 ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法（以下を考慮し総合的に行う。） ① 小テスト・定期考査の成績 ② 出席，授業態度 ③ 課題提出 ④ ノート作成</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、課題のプリントをしっかりと読み、難解な語句については、辞書で意味を調べておくなど、予習・復習共に取り組む。</p> <p>② 授業では、キーワードに注目し、本文の流れやかまひほうのポイントが明確になるようにまとめる。</p> <p>③ 教材の区切りには、ノートを使って内容を整理し理解を深める。</p>				
教科書・教材等	読解・小論文など、様々な入試形態や形式に対応した問題プリント				

年間授業計画							
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等			
4	演習問題①	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力の強化を中心に、演習問題に取り組む。 ・現代文の文章読解、古典の基礎的な語彙、文章読解の問題に取り組む。 ・小論文模試を目標に、小論文や作文の演習に取り組む。 ・入試に向け、自己PR作文や志望動機作文に取り組む。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの種類の問題をこなし、様々な出題形式に対応できるようにする。 ・小テストを数多く行い、実際の入試に備える。 ・書き慣れることを主眼とし、様々な教科の知識を有効に活用しながら、一つの文章を完成させる手順を身につけさせる。 ・進路指導との連携を図り、入試の小論文、作文、面接で使用するものを作成していく。特に、敬語や表記など、表現において確実に力を付けるようにする。 			
5			8				
6			8				
7			8				
8			8				
9			演習問題②		<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題に慣れ、時間内に正確に解答する。 ・敬語表現について理解する。 ・読解問題では登場人物の人物像と心情を理解する。
10						8	
11						8	
12	演習問題③	<ul style="list-style-type: none"> ・入試に向けて問題演習に取り組む。 ・表現活用のまとめ、応用として、発表の取り組みをする。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・試験の形式に慣れ、時間内に正確に解答する。 ・卒業後の生活で役立つような表現を心がける。 			
1			6				
2			6				

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第3学年生活教養科		履修形態	必修	
科目の目標	<p>○世界史は決して「よその国の話」で終わるものではなく、日本とも密接に関わっていることを学ぶ。</p> <p>○世界史は、一つの地域や一つの国の歴史を追っているようにみえても、他の地域や国々のできごとと密接に関連していたり、過去と現在が不可分につながっていることを知る。</p> <p>○世界史を「点」で理解するのではなく、「線」や「面」でとらえ、地域や民族の有機的なつながりを理解し、歴史を学ぶおもしろさを理解する。</p>				
学習内容の概要	<p>第1編 世界史へのいざない 自然環境と歴史 日本列島のなかの世界の歴史</p> <p>第2編 世界の一体化と日本 ユーラシアの諸文明 結びつく世界と近世の日本 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>第3編 地球社会と日本 帝国主義の時代 急変する人類社会 世界戦争と平和 三つの世界と日本の動向 地球社会への歩みと課題 持続可能な社会への展望</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③資料活用能力など</p> <p>以上の項目について、定期テスト、出欠状況・学習態度、ノート点検・単元ごとのプリント・小テスト、長期休暇などを利用したレポート提出等を用い、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>○授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを使って復習しよう。</p> <p>○基本的事項をおさえながら、歴史的な出来事にはどんな背景があるか考えてみよう。</p> <p>○歴史の見方はひとつではない。常に多角的にとらえるようにしよう。</p> <p>○ノートをとる時には、板書事項だけでなく、気づいたことや教師の話をメモするようにしよう。</p> <p>○毎日のニュースに触れ、社会や世界に関心を持とう。あなたも世界のひとりです。</p>				
教科書・教材等	<p>○教科書『高等学校世界史A』（第一学習社） プリント 副教材『世界史Aノート』（第一学習社）</p>				

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1編 世界史へのいざない	①自然環境と歴史	6	○地理との関連により歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることについて考察する。 ○日本の歴史と世界の歴史とのつながりを理解する。
5	第2編 世界の一体化と日本	①ユーラシアの諸文明	8	・東アジア ・南アジア ・東南アジア ・西アジア ・ヨーロッパ ・アフリカ ・アメリカ ・ユーラシアの海の交流
6		②結びつく世界と近世の日本	8	・ユーラシアの陸の交流 ○14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質とその中で日本の位置づけを理解する。
7			8	
8		③ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	8	○イギリスの産業革命の背景を世界史的視野からとらえ、産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。
9			8	○ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め、その歴史的意義を考察する。
10		④アジア諸国の変貌と近代の日本	8	○アジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の観点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察する。
11	第3編 地球社会と日本	①帝国主義の時代	8	○帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか追究する。
		②急変する人類社会	6	○19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化について現代の社会と関連付けながら考察する。
12		③世界戦争と平和	6	○二つの世界大戦の原因や経過、さらにはその結果について多角的に考察し、世界戦争の性格や意味を理解する。
1		④三つの世界と日本の動向	6	○東西冷戦・第三世界の台頭など、1970年頃までの世界の政治・経済の動向を考察する。
		⑤地球社会への歩みと課題		○1970年代以降の東欧諸国の民主化・ソ連の社会主義体制崩壊など、その歴史的意義を多角的に考察し、現代社会の問題点を把握する。
2		⑥持続可能な社会への展望		○現代社会の特質や課題について自ら課題を設定し、主体的な探究を通して、歴史的視野から持続可能な社会の実現について展望する。 *時数の関係で、割愛する單元もある。

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	5単位
対象学年	第3学年特別進学コースⅠ類Ⅱ類		履修形態	選択	
科目の目標	<p>○世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連づけながら理解する。</p> <p>○文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p>				
学習内容の概要	<p>世界史への扉 先史の世界</p> <p>第Ⅰ部 オリентと地中海世界 アジア・アメリカの古代文明 内陸アジア世界・東アジア世界の形成</p> <p>第Ⅱ部 イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展 内陸アジア世界・東アジア世界の展開</p> <p>第Ⅲ部 アジア諸地域の繁栄 近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 欧米における近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺</p> <p>第Ⅳ部 帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦 冷戦と第三世界の独立 現在の世界</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③資料活用能力など</p> <p>以上の項目について、定期テスト、出欠状況・学習態度、ノート点検・単元ごとのプリント・小テスト、長期休暇などを利用したレポート提出等を用い、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>○授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを使って復習しよう。</p> <p>○基本的事項をおさえながら、歴史的な出来事にはどんな背景があるか考えてみよう。</p> <p>○歴史の見方はひとつではない。常に多角的にとらえるようにしよう。</p> <p>○ノートをとる時には、板書事項だけでなく、気づいたことや教師の話をメモするようにしよう。</p> <p>○毎日のニュースに触れ、社会や世界に関心を持とう。あなたも世界のひとりです。</p>				
教科書・教材等	<p>○教科書…「詳説世界史 改訂版 世界史B」(山川出版社) プリント</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等		
4	世界史への扉 先史の世界 第Ⅰ部	①オリエントと地中海世界	15	○身近な日常生活の問題と世界史		
5			20	○オリエント文明、エーゲ文明、ギリシア・ローマ文明 ○インド文明の成立と発展 中国文明の起源～漢帝国 先住民による南北アメリカ文明の形成		
6			20	○三国～南北朝～隋唐帝国、東アジア文化圏 遊牧諸勢力の台頭		
6	第Ⅱ部	③内陸アジア世界・東アジア世界の形成	20	○内陸アジアの風土、遊牧民と国家の動向 ○イスラーム成立の背景とその特質		
7				①イスラーム世界の形成と発展	20	○地中海世界解体後のヨーロッパ世界
				②ヨーロッパ世界の形成と発展		○アジアにおける諸地域世界の交流
8	第Ⅲ部	①アジア諸地域の繁栄	20	○16～18世紀のアジア諸地域世界の特質		
9			②近世ヨーロッパ世界の形成	20	○大航海時代・ルネサンスと宗教改革 ヨーロッパ世界の拡大と変革	
10			③近世ヨーロッパ世界の展開	20	○17～18世紀のヨーロッパ諸国の動向	
10	第Ⅳ部	④近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	20	○イギリス産業革命、アメリカ独立革命とフランス革命		
11				⑤欧米における近代国民国家の発展	20	○ウィーン体制の成立と自由主義・ナショナリズム
11				⑥アジア諸地域の動揺	20	○19世紀のアジアとヨーロッパの関係
12				①帝国主義とアジアの民族運動		○世界の一体化と社会の変容
12	1	②二つの世界大戦	15	○第一次世界大戦～第二次世界大戦における世界の情勢と経済の関わり方		
2				③冷戦と第三世界の独立	○米ソ東西両陣営への分裂と第三勢力の躍進	
1	2	④現在の世界	15	○デタントによる冷戦解消、市場経済の世界化		
2				15	*時数の関係で、割愛する單元もある。	

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3単位
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>日本史Bという科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。</p>				
学習内容の概要	<p>①ヨーロッパ人がもたらした鉄砲とキリスト教によって、戦国の世の統一が促進され、鎖国を外交の基本とする徳川政権が展開されたこと、その封建支配や庶民文化の進展を学ぶ。</p> <p>②江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p> <p>③明治維新と立憲国家成立の過程を、西洋や東アジア諸国との関連の中で考え、西洋文明・近代思想の影響を学ぶ。</p> <p>④日清・日露戦争と日本が帝国主義国家に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを考察する。</p> <p>⑤政党政治の発展と大衆の関係、恐慌の繰り返しと軍部の台頭を考察しながら、日中・太平洋戦争への過程を学ぶ。</p> <p>⑥アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷と、冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢 提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜） 定期試験（学習理解度） などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを活用して復習する。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。政治史を中心とした歴史の流を頭に置きながら、時代ごとの特徴を理解するようにしたい。</p> <p>また入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「改訂版 詳説日本史B」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	幕藩体制の確立	①織豊政権 ②桃山文化	9	○織田信長や豊臣秀吉が天下を統一する過程やその政策、南蛮の影響を受けた文化を学ぶ。 (信長・秀吉の全国統一過程関係図)	
5	幕藩体制の展開	③幕藩体制の成立	1 2	○徳川政権の機構やその封建政策、初期の積極的外交から鎖国へ転換する過程などを学ぶ。	
6		①幕政の安定 ②経済の発展 ③元禄文化	1 2	(初期の外交～鎖国に至る関係図) ○ 元禄・正徳期を中心とする幕藩体制安定期の政策を理解する。	
7	(近代・現代) 近代国家の成立	①開国と幕末の動乱	1 2	○農業をはじめとする諸産業の発展や交通の発達、上方を中心とした元禄文化や儒教の興隆を学ぶ。	
8		②明治維新と富国強兵	1 2	○明治維新と立憲国家の成立過程を、西洋や東アジア諸国との関連で考える。	
9		③立憲国家の成立と日清戦争 ④日露戦争と国際関係	1 2	また、西洋文明・近代思想の影響を受けた文明開化の風潮の広がりを学ぶ。 ○日清・日露戦争とわが国が帝国主義国に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを理解する。	
10	近代日本とアジア	⑤近代産業の発展 ⑥近代文化の発達	1 2	○第1次世界大戦を通じて強国に成長した日本が、一步で、台湾の領有、韓国併合など東アジアへの進出を強めていく過程を理解する。	
11		①第1次世界大戦と日本 ②ワシントン体制 ③市民文化 ④恐慌の時代 ⑤軍部の台頭	1 2	○政党政治の発展と大衆との関係、恐慌と軍部の台頭を考察しながら、アジア・太平洋戦争の過程を学ぶ。	
12	占領下の日本	⑥第2次世界大戦 ①占領と改革	9	○アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造を学ぶ。	
1	高度成長の時代	②冷戦の開始と講話 ①55年体制 ②経済復興から高度成長へ	9	○冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷を考察する。	
2	激動する世界と日本	①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の動揺		○冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。	

教科名	地理歴史	科目名	日本史演習	単位数	5単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ、Ⅱ類）		履修形態	選択	
科目の目標	<p>日本史という科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。</p>				
学習内容の概要	<p>①江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p> <p>②明治維新と立憲国家成立の過程を、西洋や東アジア諸国との関連の中で考え、西洋文明・近代思想の影響を学ぶ。</p> <p>③日清・日露戦争と日本が帝国主義国家に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを考察する。</p> <p>④政党政治の発展と大衆の関係、恐慌の繰り返しと軍部の台頭を考察しながら、日中・太平洋戦争への過程を学ぶ。</p> <p>⑤アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷と、冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢 提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜） 定期試験（学習理解度） などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを活用して復習する。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。政治史を中心とした歴史の流を頭に置きながら、時代ごとの特徴を理解するようにしたい。</p> <p>また入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「改訂版 詳説日本史B」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	幕藩体制の展開	①開国と幕末の動乱	15	○明治維新と立憲国家の成立過程を、西洋や東アジア諸国との関連で考える。 また、西洋文明・近代思想の影響を受けた文明開化の風潮の広がり学ぶ。	
5	(近代・現代) 近代国家の成立	②明治維新と富国強兵	20		
6		③立憲国家の成立と日清戦争 ④日露戦争と国際関係	20	○日清・日露戦争とわが国が帝国主義国に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを理解する。	
7	近代日本とアジア	⑤近代産業の発展 ⑥近代文化の発達	20	○江戸文化の継承と欧米文化導入による近代文化の発展を考察する。	
8		①第1次世界大戦と日本	20	○第1次世界大戦を通じて強国に成長した日本が、一歩で、台湾の領有、韓国併合など東アジアへの進出を強めていく過程を理解する。	
9	占領下の日本	②ワシントン体制 ③市民文化	20	○政党政治の発展と大衆との関係、恐慌と軍部の台頭を考察しながら、アジア・太平洋戦争の過程を学ぶ。	
10		④恐慌の時代 ⑤軍部の台頭 ⑥第2次世界大	20	○アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造を学ぶ。	
11	高度成長の時代	①占領と改革 ②冷戦の開始と講話	20	○冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷を考察する。	
12	激動する世界と日本	①55年体制 ②経済復興から高度成長へ	20	○冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。	
1	総復習	①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の動揺	15	○日本史におけるまとめ	
2			15		

教科名	地理歴史	科目名	日本史演習	単位数	4単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>日本史演習は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。</p>				
学習内容の概要	<p>①ヨーロッパ人がもたらした鉄砲とキリスト教によって、戦国の世の統一が促進され、鎖国を外交の基本とする徳川政権が展開されたこと、その封建支配や庶民文化の進展を学ぶ。</p> <p>②江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p> <p>③明治維新と立憲国家成立の過程を、西洋や東アジア諸国との関連の中で考え、西洋文明・近代思想の影響を学ぶ。</p> <p>④日清・日露戦争と日本が帝国主義国家に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを考察する。</p> <p>⑤政党政治の発展と大衆の関係、恐慌の繰り返しと軍部の台頭を考察しながら、日中・太平洋戦争への過程を学ぶ。</p> <p>⑥アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷と、冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢 提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜） 定期試験（学習理解度） などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを活用して復習する。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。政治史を中心とした歴史の流を頭に置きながら、時代ごとの特徴を理解するようにしたい。</p> <p>また入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「改訂版 詳説日本史B」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	実施状況
4	幕藩体制の確立	①織豊政権 ②桃山文化	1 2	○織田信長や豊臣秀吉が天下を統一する過程やその政策、南蛮の影響を受けた文化を学ぶ。 (信長・秀吉の全国統一過程関係図)	
5	幕藩体制の展開	③幕藩体制の成立	1 6	○徳川政権の機構やその封建政策、初期の積極的外交から鎖国へ転換する過程などを学ぶ。	
6		①幕政の安定 ②経済の発展 ③元禄文化	1 6	(初期の外交～鎖国に至る関係図) ○ 元禄・正徳期を中心とする幕藩体制安定期の政策を理解する。	
7	(近代・現代) 近代国家の成立	①開国と幕末の動乱	1 6	○農業をはじめとする諸産業の発展や交通の発達、上方を中心とした元禄文化や儒教の興隆を学ぶ。	
8		②明治維新と富国強兵	1 6	○明治維新と立憲国家の成立過程を、西洋や東アジア諸国との関連で考える。	
9		③立憲国家の成立と日清戦争 ④日露戦争と国際関係	1 6	また、西洋文明・近代思想の影響を受けた文明開化の風潮の広がりを学ぶ。 ○日清・日露戦争とわが国が帝国主義国に成長する過程、近代産業の発展とそれに伴う社会問題の発生などを理解する。	
10	近代日本とアジア	⑤近代産業の発展 ⑥近代文化の発達 ①第1次世界大戦と日本	1 6	○第1次世界大戦を通じて強国に成長した日本が、一歩で、台湾の領有、韓国併合など東アジアへの進出を強めていく過程を理解する。	
11		②ワシントン体制 ③市民文化 ④恐慌の時代 ⑤軍部の台頭	1 6	○政党政治の発展と大衆との関係、恐慌と軍部の台頭を考察しながら、アジア・太平洋戦争の過程を学ぶ。	
12	占領下の日本	⑥第2次世界大戦 ①占領と改革	1 2	○アメリカの占領と民主化政策による日本の復興、冷戦構造を学ぶ。	
1	高度成長の時代	②冷戦の開始と講話 ①55年体制 ②経済復興から高度成長へ	1 2	○冷戦構造と日米関係の推移、高度経済成長期の経済および社会の変遷を考察する。	
2	激動する世界と日本	①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の動揺		○冷戦終結後の内外情勢の問題点を考える。	

教科名	公民	科目名	政治・経済	単位数	5単位
対象学年	第3学年(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>1. 基本的人権の尊重と、民主政治の基本原則・日本国憲法の基本理念について理解する。</p> <p>2. 経済のしくみと企業・政府の役割について理解する。</p> <p>3. 国際社会の動向と日本の役割を考える。</p>				
学習内容の概要	<p>◎「現代社会」で履修した内容を含め、センター試験の過去問演習を行うとともに、時事問題とリンクさせながら、学習を進める。</p> <p>【現代の政治】</p> <p>①民主政治の基本原則 ②日本国憲法の基本原則 ③日本の政治機構 ④現代政治の特質と課題 ⑤現代の国際政治</p> <p>【現代の経済】</p> <p>①現代の資本主義経済 ②現代経済のしくみ ③日本経済の発展と産業構造の変化 ④福祉社会と日本経済の課題 ⑤国民経済と国際経済</p>				
評価観点・評価の方法	<p><観点> 社会問題に対する関心・意欲・態度</p> <p><方法> 授業態度、提出物、課題研究、定期考査などをふまえ、総合的に判断する</p>				
学習方法	<p><家庭学習></p> <p>*予習は特に必要ありませんが、テレビ・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしましょう。特に3年生は時事問題など、進学、小論文試験の際は重要になります。自分自身の進路に関する時事問題は、特に注意を払ってください。</p> <p><授業></p> <p>*授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・担当教員の話などメモすることも忘れず、習慣化しましょう。</p> <p>*授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように努めましょう。</p> <p>*教科書をしっかり読み、ゴシックの箇所は十分に理解するよう努めましょう。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『政治・経済』(東京書籍)</p> <p>日本海新聞、朝日新聞、センター試験予想練習問題等</p>				

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント *学習項目
4	現代の政治 ①民主政治の基本 原理	1. 国民と政治 2. 民主政治の展開 3. 人権保障の発達 4. 議会制民主主義	15	国家と政治・政治参加の意義 民主主義思想の展開・社会契約説・法の支配 基本的人権の成立・人権保障の広がり 議員内閣制・大統領制
5	②日本国憲法の基 本原理	1. 日本国憲法の概要 2. 日本国憲法と平和主義 3. 日本国憲法と基本的人 権の保障 4. 新しい人権	20	明治憲法の特徴・日本国憲法の成立 国民主権・基本的人権の尊重・平和主義 憲法と自衛隊・シビリアンコントロール 法の下での平等・自由権・社会権 基本的人権と公共の福祉
6	③日本の政治機構	1. 日本の政治機構の特徴 2. 国会の組織と機能 3. 内閣の機構と権能 4. 裁判所の機能と人権 5. 地方自治	20	議会制民主主義の原理 国会の地位と権限・衆議院の優越 内閣の権限・内閣と国会の関係 司法権の独立・裁判制度・違憲審査権 地方自治の本旨・選挙制度
7	④現代政治の特質 と課題 ⑤現代の国際政治	1. 民主政治と選挙 2. 現代政治の課題 1. 国際関係と国際法 2. 国際連合	20	小選挙区制・比例代表制 一票の格差 条約・国際慣習法 勢力均衡・集団安全保障
8			20	アダム=スミス・ケインズ・マルクス 新自由主義 ストックとフロー
9	現代の経済 ①現代の資本主義 経済 ②現代経済の仕組 み	1. 資本主義経済の発展 2. 現代経済の特質 1. 経済循環 2. 企業 3. 金融 4. 財政	20	銀行・日本銀行・金融政策・財政政策・租税 景気の変動・国民福祉
10	③日本経済の発展 と産業構造の変 化	1. 高度成長 2. オイルショック後の日 本経済	20	経済の民主化・神武景気・岩戸景気・ オリンピック景気・いざなぎ景気 バブル経済
11			20	公害・環境保全・資源、エネルギー問題 消費者の4つの権利 農業基本法
12	④福祉社会と日本 経済の課題	1. 環境保全と公害防止 2. 消費者問題 3. 農業・食料問題 4. 雇用と労働 5. 社会保障と福祉	15	労働三権・労働三法 社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
1	⑤国民経済と国際 経済	1. 貿易と国際収支 2. 発展途上国の経済国際 3. 地域主義 4. 世界経済	15	国際収支・外国為替の仕組み 南北問題 FTA・EPA 国際協調・国際経済における日本の役割
2				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント *学習項目
4	現代の経済 ①現代の資本主義 経済	1. 資本主義経済の発展 2. 現代経済の特質	6	アダム＝スミス・ケインズ・マルクス 新自由主義
5			8	
6	②現代経済の仕組 み	1. 経済循環 2. 企業 3. 金融 4. 財政	8	ストックとフロー 銀行・日本銀行・金融政策・財政政策・租税 景気の変動・国民福祉
7	③日本経済の発展 と産業構造の変 化	1. 高度成長 2. オイルショック後の日 本経済	8	経済の民主化・神武景気・岩戸景気・ オリンピック景気・いざなぎ景気 バブル経済
8				
9			8	
10	④福祉社会と日本 経済の課題	1. 環境保全と公害防止 2. 消費者問題 3. 農業・食料問題 4. 雇用と労働 5. 社会保障と福祉	8	公害・環境保全・資源、エネルギー問題 消費者の4つの権利 農業基本法 労働三権・労働三法 社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
11			8	
12	⑤国民経済と国際 経済	1. 貿易と国際収支 2. 発展途上国の経済国際 3. 地域主義 4. 世界経済	6	国際収支・外国為替の仕組み 南北問題 FTA・EPA 国際協調・国際経済における日本の役割
1			6	
2				

教科名	公民	科目名	現代社会演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年(特別進学コースⅠ類・Ⅱ類)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>1 現代の経済の仕組みを市場や国民経済の観点から理解するとともに、日本の経済の動きを学び、政府による調整を必要とする消費者問題や雇用と労働、社会保障の現状と課題などについて考察します。</p> <p>2 国際社会の仕組みと動きを経済、政治の観点から理解するとともに、国際社会の諸課題について考察し、国際社会に生きる日本の役割について考えます。</p>				
学習内容の概要	<p>第2部では、現代経済と福祉、国際社会と人類の課題を取り上げ、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察します。</p> <p>第3部では、第1部、第2部で学習した成果を活用し、持続可能な社会の形成に参画する観点から、課題を探究する学習を行います。</p> <p>これらの学習を通じて、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることを目指します。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>① 関心・意欲・態度・・・現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする</p> <p>② 知識・理解・・・現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用態度を身につけている。</p> <p>③ 技能・表現・・・役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>* 定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>(授業)</p> <p>*授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることも忘れず、習慣化しよう。</p> <p>*授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がけよう。</p> <p>*プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理しておこう。</p> <p>(家庭学習)</p> <p>*予習は特に必要ありませんが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしよう。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『現代社会』(東京書籍)</p> <p>各種のプリント</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・留意点・評価等
4	第4章 現代の経済と国民福祉	①経済のしくみ	6	○資本主義経済の成立とその後の変容について理解します。 ○市場における買い手や売り手の立場に立って価格の役割を考えます
5			8	○金利などを調べ、金融について関心を深めます。 ○金融に関する報道記事などを探して、整理します。
6			8	○高度経済成長の中で生活や社会がどのように変化したのか考えます。 ○国際経済環境と国内の経済の動きとの関連について整理します。
7	第5章 国際社会と人類の課題	②豊かな生活の実現	8	○雇用や賃金格差などの課題や問題について、調べます。 ○労働者の権利がなぜ必要なのか考えます。
8			8	○労働や雇用の在り方の変化について調べます。 ○日本の社会保障制度を健康保険制度など身近な事例から調べます。
9			8	○日本の輸出入の変化について調べます。 ○毎日の為替レートの動きについて調べます。
10			8	○世界経済の動きとIMF－GATT体制の変化について整理します。 ○国境を超えた金融の動きについて報道を手がかりに調べます。
11			8	○国際法の種類と具体的な内容について調べます。 ○国際連盟と国際連合を比較します。
12	第3部 ともにいきる社会をめざして	③国際社会の現状と課題	6	○WHOやUNESCOなどの活動について調べます。 ○第二次世界大戦後の東西対立から冷戦終結までの流れを整理します。
1			6	○日本が関係する地域統合について調べます。 ○民族紛争について経緯や解決に向けた取り組みについて調べます。
2			6	○人権保護のための国際的な活動について調べます。
3	まとめ			○持続可能な社会の形成に向けて、課題を設定し、様々な方法で調べ、分かったことをまとめる活動を行います。また、課題を解決するためには何が必要か、わたしたちに何かできるかなどの点について提案したり話し合ったりする活動を行います。

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	5単位
対象学年	第3学年(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)		履修形態	選択	
科目の目標	<p>極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>(1) 複素数平面 座標平面上の点に複素数を対応させることで複素数平面を導入する。ベクトルの和・差および実数倍との関連から複素数の和・差および実数倍を図示し、また、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の幾何学的意味を理解する。また、ド・モアブルの定理を使って方程式 $z^n = \alpha$ を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味を理解する。</p> <p>(2) 式と曲線 放物線、楕円、双曲線について、幾何学的な定義に基づいて曲線の方程式を導き、それぞれの曲線の基本的な性質について理解する。また、2次曲線と直線の共有点の個数を調べることと2次方程式の解の判別との関連や、接する、交わるなどの2次曲線と直線の位置関係について認識する。さらに、2次曲線の平行移動について理解する 曲線の媒介変数表示について理解する。また、平面上の点や図形を表す他の方法として、極座標、極方程式について学び、極座標の意味、直交座標との関係を理解する。</p> <p>(3) 関数 分数関数と無理関数の簡単な関数について、そのグラフをかいたり、グラフを利用して方程式や不等式が解けるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解する。</p> <p>(4) 極限 数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、数列の極限と大小関係などの基本事項を理解し、無限等比数列 $\{r^n\}$ の極限についてまとめ、数列の極限の理解を深める。 無限級数の和について理解する。それを、無限等比級数に応用して、その収束条件や和の公式を導く。さらに、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。 x の値を限りなく a に近づけたとき、あるいは x の値を限りなく大きくしたときなどの $f(x)$ の極限について理解する。三角関数の極限では $\lim \sin \theta / \theta = 1$ を扱い、それに関連するいろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、関数の連続性を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p> <p>(5) 微分法 微分可能性の概念を理解し、微分可能性と連続性との関係を把握する。また和・差・積・商の導関数の公式、合成関数、逆関数、陰関数の微分法を示して、微分の演算の習得を目指す。 三角関数の微分、対数関数の微分の技法を習得し、それと関連して自然対数の底 e を導入して指数関数の微分ができるようにする。また、高次導関数の概念を理解し、簡単な関数の第2次、第3次導関数が求められるようにする。</p> <p>(6) 微分法の応用 導関数を用いて様々な問題への活用を図ります。接線や法線の方程式を求めること、平均値の定理を用いて $f'(x)$ と $f(x)$ の増減を調べること、最大・最小や方程式・不等式の証明問題などへの応用を図り、微分の有用性を認識する。 第2次導関数を用いてグラフの凹凸、変曲点を調べてグラフをかけるようにする。</p> <p>(7) 積分法とその応用 微分法と同様に、扱う関数の範囲を広げ、積分の基本的な性質や置換積分法、部分積分法について理解し、これらを用いた計算をできるようにする。</p>				

	<p>定積分と微分の関係、区分求積法について学び、定積分について理解を深め、不等式の証明を行う。</p> <p>いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を計算する。また、媒介変数で表された曲線によって囲まれた図形の面積も求められるようする。</p> <p>積分による体積の求め方を扱う。角錐や円錐などの体積を求め、積分の有用性を理解します。さらに、回転体の体積を求める技法を習得し、体積が求められるようにする。円弧やサイクロイドの曲線の長さを計算する。</p>
<p>評価の観点・ 評価の方法</p>	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>
<p>学習方法</p>	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないよう心がけることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度を高め、その日学んだ内容をより確かなものにしていく。</p>
<p>教科書・教材等</p>	<p>教科書・・・新編数学Ⅲ (数研出版) 副教材・・・教科書傍用 TRIAL 数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅲ (数研出版)</p>

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	1 5	座標平面上の点に複素数を対応させることで複素数平面を導入する。複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の幾何学的意味を理解する。また、ド・モアブルの定理を使って方程式 $z^n = \alpha$ を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味を理解する。
5	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	2 0	幾何学的な定義に基づいて曲線の方程式を導き、それぞれの曲線の基本的な性質について理解する。また、2次曲線と直線の共有点の個数を調べることと2次方程式の解の判別との関連や、接する、交わるなどの2次曲線と直線の位置関係について認識する。さらに、2次曲線の平行移動について理解する。
	第2節 媒介変数表示 と極座標	6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用		曲線の媒介変数表示について理解する。また、極座標、極方程式について学び、極座標の意味、直交座標との関係を理解する。
	第3章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数		分数関数、無理関数のグラフをかき、そのグラフを利用して、方程式や不等式を解く。具体的な関数について、逆関数・合成関数を求める。
6	第4章 極限 第1節 数列の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限等比級数 4 関数の極限 (1)	2 0	数列の極限の概念を確認し、収束・発散の意味を理解する。無限等比級数の収束・発散の意味を理解し、極限の計算を正確に行う。関数の極限の意味と極限値の性質について学び、指数・対数・三角関数の極限を求める。関数の連続性の意味を確認し、連続関数の基本的な性質と応用について学ぶ。
	第2節 関数の極限	5 関数の極限 (2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性		
7	第5章 微分法 第1節 導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数	2 0	関数の微分可能性と連続性との関連について学ぶ。積と商の導関数、合成関数や逆関数の微分法の演算技法を理解し、その応用について学ぶ。三角関数を含んだ関数、や、対数・指数関数を含んだ関数を微分する計算を習得する。第n次導関数の概念と記号を学び、第2次、第3次導関数を求める。微分する方法を習得する。
	第2節 いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数		
8	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	2 0	微分係数の幾何学的意味を再確認し、接線の方程式とその応用について学ぶ。平均値の定理についてその意味を理解するとともに、その活用について学ぶ。様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフをかく。第2次導関数を用いて、グラフの凸凹、変曲点、調べる。微分法を用いて、方程式の実数解の個数を調べたり、不等式の証明を行ったりする。微分法により、運動の速

9	第2節 いろいろな 応用		20	<p>度・加速度を系統的に学ぶ。導関数を用いて、1次近似式を導き、関数の近似式を求める。</p>
10	第7章 積分法とその 応用 第1節 不定積分	<p>1 不定積分とその基本性質</p> <p>2 置換積分法と部分積分法</p> <p>3 いろいろな関数の不定積分</p> <p>4 定積分とその基本性質</p> <p>5 置換積分法と部分積分法</p> <p>6 定積分のいろいろな問題</p>	20	<p>微分法の逆演算としての不定積分を再確認し、積分定数の意味について考える。置換積分法と部分積分法の原理と具体的な方法について学び、それらの計算が適確に行う。いろいろな関数について不定積分の公式を活用できるようにする。</p> <p>不定積分をもとにして、いろいろな関数の定積分の計算ができるようにする。置換積分法と部分積分法の計算技法について具体的な例を学ぶ。区分積分法と定積分の関係について学び、これをもとにして数列の極限を求めたり、不等式の証明を行ったりする。</p>
11	第2節 定積分	<p>7 面積</p> <p>8 体積</p> <p>9 道のり</p>	15	<p>いろいろな関数で表される曲線で囲まれた部分の面積及び立体の体積を、定積分を用いて求める。</p> <p>既習内容の復習をしながら、演習形式で問題を解き、実践的な力を身につける。</p>
12	第3節 積分の応用	10 曲線の長さ	15	
1		個別学力試験対策	15	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	3単位
対象学年	第3学年(生活教養科)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>・問題集を解き、就職・進学試験に対応できる学力を身につける。</p> <p>・場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>〔1〕 問題演習 中学数学・数学Ⅰの既習分野の復習をしながら、計算力、応用力を身につける。 数の計算 式の計算 因数分解 約数と倍数 無理数の計算 式の値 比例式 1次方程式 連立方程式 2次方程式 1次不等式 2次不等式 文章問題 1次関数とグラフ 2次関数とグラフ 三角比 図形 面積・体積 など</p> <p>〔2〕 数学A (1) 場合の数と確率 具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。 ア 場合の数 イ 確率とその基本的な法則</p> <p>(2) 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ア 平面図形 イ 空間図形</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(5) 関心・意欲・態度 (6) 数学的な見方や考え方 (7) 表現・処理 (8) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書・・・新数学A (東京書籍) 副教材・・・改訂版ニューファースト 新数学A (東京書籍)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則 4. 順列 5. 順列の利用	9	集合の表し方, 部分集合, 共通部分と和集合, 空集合, 全体集合, 補集合について学び, 有限集合の要素の個数を正しく求められるようにさせる。 和の法則・積の法則, 順列, 円順列, 重複順列について学び, もれなく重なりなく要領よく数える方法を身につけさせる。また, 組合せや同じものを含む順列について学び, 論理的に考える力を養うとともに, 記号の有用性を理解させる。
5			12	
6	第2節 確率	1. 確率の意味. 2. 確率の計算 3. 独立な試行の確率 4. 反復試行の確率 5. 条件つき確率 章末問題	12	試行と事象, 事象の確率について学び, 確率の意味を知り, 不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識させる。和事象・積事象, 排反事象, 余事象, 確率の基本性質, 確率の加法定理について, 集合と関連づけながら学び, 事象を数学的に考察し処理できるようにさせる。
7	就職問題集・プリント等による演習	復習を主とする。中学数学・数Iの問題を解く。	12	既習内容の復習をしながら, 演習形式で問題を解き, 実践的な力を身につけさせる。
8			12	
9			12	
10	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	1. 三角形と比 2. 三角形の重心・外心・内心 3. 角の二等分線と線分の比	12	三角形の辺と角の大小関係, 内分と外分, 三角形の角の二等分線, 重心・外心・内心について学び, 図形について理解を深めるとともに, 直観力・洞察力を養い, 論理的に考察できるようにする。
11	第2節 円の性質	1. 円周角の定理 2. 円に内接する四角形 3. 円と直線 4. 接線と弦のつくる角 5. 方べきの定理 6. 2つの円	12	円周角, 円周角の定理の逆, 内接する四角形などについて学ぶ。 円と接線, 接線と弦のつくる角, 方べきの定理, 2つの円について学び, 活用していくことを通して, 図形の性質の美しさを味わいながら, 論理的な思考力を養う。
12	第3節 作図	1. 基本の作図 2. いろいろな作図	9	
1	第4節 空間図形	1. 直線や平面の位置関係 2. 多面体 章末問題	9	
2				

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) ベクトル ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。 ア 平面上のベクトル イ 空間座標とベクトル</p> <p>(2) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。 ア 数列とその和 イ 漸化式と数学的帰納法</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(9) 関心・意欲・態度 (10) 数学的な見方や考え方 (11) 表現・処理 (12) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白 も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しな いようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習を すること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なも のにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書・・・新編数学B（東京書籍） 副教材・・・New Assist 数学B（東京書籍）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1 ベクトル	6	ベクトルを有効線分の向きと大きさだけをだけに着目した量として理解する。ベクトルの相等および、和、差、実数倍などの演算を定義し、線形性に着目する。ベクトルの2方向への分解を取り上げて、さらに基本ベクトル表示、成分表示の意味を理解する。ベクトルの内積とその計算法則を理解する。また、内積を利用して、2つのベクトルのなす角、線分の長さや垂直関係を調べる。
5		2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	8	
6	第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル	8	位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求める。また、位置ベクトルを用いて、ベクトルに関する等式が成り立つことを示す。位置ベクトルが平面図形の性質を調べるのに有効であることを認識する。直線のベクトルによる表示を考え、その成分表示と x 、 y の1次方程式との関係を明らかにする。
7		6 ベクトルの図形への応用 7 直線のベクトルによる表示		
8	第2章 空間のベクトル	1 空間の点	8	空間は3次元であることを実感させ、座標空間、空間ベクトルを導入する。平行六面体という立体図形を把握し、この図形を用いて、空間ベクトルの表現をする。ベクトルの成分表示、成分計算ができるようにする。空間ベクトルの内積の計算、図形的な意味を理解する。位置ベクトルについても、平面上で求めたベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解する。また、点Pが平面ABCにある条件の処理方法を学ぶ。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。
9		2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積		
10		5 位置ベクトル 6 座標空間における図形		
11	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 いろいろな数列の和	8	数列の第 n 項を n の式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めたりするのに有用な Σ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で Σ を活用できるようにする。 Σ を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
12		7 階差数列 8 漸化式		
1	第3節 数学的帰納法	9 数学的帰納法	6	漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するということの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例に当たりながら理解する。
2		問題演習	6	

教科名	数学	科目名	数学活用	単位数	3単位
対象学年	第3学年(総合コース)		履修形態	必修	
科目の目標	数学と人間とのかかわりや数学の社会的有用性についての認識を深めるとともに、事象を数学的に考察する能力を養い、数学を積極的に活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 数学と人間の活動 数学が人間の活動にかかわってつくられ発展してきたことやその方法を理解するとともに、数学と文化とのかかわりについて認識を深める。</p> <p>ア 数や図形と人間の活動 数量や図形に関する概念などと人間の活動や文化とのかかわりについて理解すること。</p> <p>イ 遊びの中の数学 数理的なゲームやパズルなどを通して論理的に考えることのよさを認識し、数学と文化とのかかわりについて理解すること。</p> <p>(2) 社会生活における数理的な考察 社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察するとともに、それらの活動を通して数学の社会的有用性についての認識を深める。</p> <p>ア 社会生活と数学 社会生活などの場面で、事象を数理化し考察すること。</p> <p>イ 数学的な表現の工夫 図、表、行列及び離散グラフなどを用いて、事象を数学的に表現し考察すること。</p> <p>ウ 目的に応じてデータを収集し、表計算用のソフトウェアなどを用いて処理しデータ間の傾向をとらえ予測や判断をすること。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(13) 関心・意欲・態度 (14) 数学的な見方や考え方 (15) 表現・処理 (16) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫してみる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしていく。</p>				
教科書・教材等	教科書・・・数学活用 (東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1章 身の回りの 数学	試合数	9	<p>数学における概念の形成や原理・法則の認識の過程と人間の活動や文化とのかかわりを中心として、数学史的な話題及びコンピュータを活用した数学的な問題の解決などを取り上げます。</p> <p>数学の起源にかかわる人間の活動には、数える、測る、位置を示す、設計する、遊ぶ、説明する などがあるとされていて、これらの活動には、一方で文化的、社会的、歴史的な背景が存在し、他方では社会や文化を越えた共通性が見られます。</p> <p>数学がこのような人間の活動とのかかわりの中でつくられ発展してきたことや、数学を文化との10関連からとらえることは、それ自身重要であるが、数学をより身近なものとして感じとらせ、数学に対する興味や関心が湧く内容となっています。</p> <p>人間を「遊ぶ人」を意味するホモ・ルーデンスという言葉で規定することがあるように、遊びは人間の活動の本質的なものであり、文化を生み出す源である。数学と遊びにも深い関係があり、ここでは遊びの中に数学が顕在する例として、論理的な思考を必要とする数理的なゲームやパズルなどを取り上げ、戦法などを考えさせることを通して論理的に考えることのよさを認識させるとともに、数学と文化とのかかわりを理解します。</p> <p>自分の見いだした方法や考えについて、その根拠が的確に伝わるよう、わかりやすく表現することが大切です。</p>
5	1節 いろいろな 場合の数	樹形図 点字のしくみ 最短距離の道順 紋章	1 2	
6	2節 身の回りの 図形	平面のしきつめ 多面体の性質 正多面体の展開図	1 2	
7	3節 数学的な表 現のくふう	道順とあみだくじ 7つの橋 行列と経路 航路と行列の席	1 2	
8	就職問題集・プリン ト等による演習		1 2	
9	2章 社会生活と 数学	賞金と期待値 単利法 複利法		
10	1節 経済と数学	ローンの返済	1 2	
11	2節 測定と数学	本の大きさ 地図を読む 坂道の角度 建物の高さ	1 2	
12	3節 コンピュータ と人間の活動	2進法 GPS 近似直線 標本調査	9	
1	3章 数学の発展と 人間の活動	数字 5進法		
2	1節 数と人間	0の発見 四角数・三角数 フィボナッチ数列	9	
	2節 図形と人間	古代の測量 ピラミッドの高さ 三平方の定理		
	4節 数学と文化	円周率 黄金比 カレンダー 音階		

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ演習	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コース）		履修形態	選択	
科目の目標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B分野の、大学入試センター試験レベルの問題への対応力を養う。				
学習内容の概要	<p>・既習分野の復習をしながら、大学入試センター試験に対応する力、およびマーク式問題に対応できる力を養成する。</p> <p>・単元の内容・枠にとらわれない複合的な学習を目指す。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(17) 関心・意欲・態度 (18) 数学的な見方や考え方 (19) 表現・処理 (20) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>問題集（解答編を事前に配布）で事前解答（予習）をして、良く理解できなかった問題をもう一度解答（復習）してみよう。いざ自分で解いてみると、どこかでつまずいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。予習・復習ともに重要である。</p> <p>授業では問題の背景・関連事項などの理解に努める。</p> <p>なお、基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して見る必要がある。</p> <p>また、積極的に先生や友達に質問をして、理解していない問題を放置しないよう心がけよう。</p>				
教科書・教材等	<p>教材 … 大学入試センター試験対策・数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 標準演習 PLAN100 数研出版編集部 編)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第6章 積分法	面積の演習	9	関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を 求める。絶対値を含むグラフで囲まれる部分
5	第5章 対数関数	3対数とその性質 4対数関数 5常用対数	1 2	の面積を求めるなど応用に取り組む。 指数法則から対数の性質を導き、対数関数を 扱えるようにする。指数・対数関数のグラフ
6	演習	大学入試センター 試験対策	1 2	とその性質を理解し、方程式・不等式など へ応用する。常用対数について学び、応用 を図る。
7		復習を主とする 分野別演習を主とする	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手分野の克服。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。
8		方程式と不等式		
9		2次関数	1 2	
10		図形と計量 場合の数と確率 論理と集合 平面図形 式と証明	1 2	
11		複素数と方程式 図形と方程式 三角関数	1 2	
12		指数関数・対数関数 微分法・積分法 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	9	
1			9	
2		本番同様のセットで演習を 主とする（マークテストを 主とする）		<ul style="list-style-type: none"> ・ マーク式問題に対応できる。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。
		個別学力試験対策		

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ演習	単位数	3単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対数関数、微分と積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・就職・進学試験に対応できる学力を身につける。 				
学習内容の概要	<p>(1) いろいろな関数 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ア 対数関数</p> <p>(2) 微分・積分 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めること等、具体的な事象の考察に活用出来るようにする。 ア 微分の考え イ 積分の考え</p> <p>(3) 問題演習 数学Ⅰ・Ⅱの既習分野の復習をしながら、計算力、応用力を身につける。 看護学校等の過去問を扱い、進学に必要な力を身につける。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(2 1) 関心・意欲・態度 (2 2) 数学的な見方や考え方 (2 3) 表現・処理 (2 4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書・・・新数学Ⅱ (東京書籍) 副教材・・・改訂版 ニューアシスト新編数学Ⅱ (東京書籍)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第5章 指数関数と対数関数 第1節指数関数 第2節対数関数	1 対数とその性質 2 対数関数 3 常用対数	9	指数法則から対数の性質を導き、対数関数を扱えるようにする。指数・対数関数のグラフとその性質を理解し、方程式・不等式などへ応用する。常用対数について学び、応用を図る。
5			12	平均変化率や微分係数の意味・導関数の定義を理解する。導関数の和・差・実数倍が求められるようにする。接線の方程式を導き、導関数についての考察を通して、関数の増加・減少を調べる、極大値・極小値を求めることで、3次関数・4次関数のグラフがかけられるようにする。
6	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式	12	グラフをから関数の最大・最小や方程式・不等式への応用について取り組む。微分の逆演算として不定積分を導入し、関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を求める。グラフで囲まれる部分の面積を求めるなど応用に取り組む。
7	第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 6 不定積分 7 定積分 8 図形の面積と定積分	12	
8			12	
9				
10			12	既習事項の内容の定着を図り、進学に向けた力を身に着ける。
11			12	
12			9	
1			9	
2				

教科名	数学	科目名	数Ⅱ演習②	単位数	1単位
対象学年	第3学年(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)		履修形態	選 択	
科目の目標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B分野の、大学入試センター試験レベルの問題への対応力を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既習分野の復習をしながら、大学入試センター試験に対応する力、およびマーク式問題に対応できる力を養成する。 ・単元の内容・枠にとらわれない複合的な学習を目指す。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>問題集(解答編を事前に配布)で事前解答(予習)をして、良く理解できなかった問題をもう一度解答(復習)してみよう。いざ自分で解いてみると、どこかでつまづいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。予習・復習ともに重要である。</p> <p>授業では問題の背景・関連事項などの理解に努める。</p> <p>なお、基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して見る必要がある。</p> <p>また、積極的に先生や友達に質問をして、理解していない問題を放置しないよう心がけよう。</p>				
教科書・教材等	教材 … 大学入試センター試験対策・数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 標準演習 PLAN100 数研出版編集部 編)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	演習	大学入試センター 試験対策	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手分野の克服。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。 	
5		復習を主とする 分野別演習を主とする	1 2		
6		方程式と不等式 2次関数 図形と計量 場合の数と確率 論理と集合	1 2		
7		平面図形 式と証明	1 2		
8		複素数と方程式	1 2		
9		図形と方程式 三角関数			
10		指数関数・対数関数 微分法・積分法 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	1 2		
			1 2		
			1 2		
12		本番同様のセットで演習を 主とする（マークテストを 主とする）	9		<ul style="list-style-type: none"> ・ マーク式問題に対応できる。 ・ 他分野にわたる複合的な内容を理解できる。 ・ 時間内に解答ができる。
1			9		
2		個別学力試験対策			

教科名	理科	科目名	物理	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	選択	
科目の目標	物理基礎で学習した内容も含め、身近な物理的現象や事物をさらに詳しく探求し、新たな原理や法則の理解を深めるとともに、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(3) 電気と磁気 電気や磁気に関する現象を観察・実験などを通して探求し、電気や磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解を深め、それらを様々な電磁気現象に応用して考察する。</p> <p>(4) 原子 物質と原子に関する現象について、物質の物理的性質が原子や分子などの現象によりもたらされることを理解し、固体の性質を電子の状態と関連付けて考察する。また、光や電子の波動性と粒子性、原子や原子核、素粒子における現象について、量子的考えなど基本的な概念や原理・法則を理解する。 ※教科書内容は前期で終え、後期は大学入試に向けた演習を行う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は物理への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いて大学入試問題・センター試験対応の問題演習等。運動、電気、熱等に関する演習実験。				
教科書・教材等	教科書 「高等学校 物理」(第一学習社) 問題集 「リード Light ノート物理」(数研出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	電場と電位	電場 電位 コンデンサー	9	クーロンの法則、電気量保存の法則、電場ベクトル、電気力線などを理解し、コンデンサーの働きと電気容量を学ぶ。
5	電流	電流と抵抗 直流回路 半導体	12	オーム・ジュールの各法則、直流回路、電流計と電圧計の構造、キルヒホッフの法則を理解する。
6	電流と磁場	磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	12	磁石や磁気の性質を理解し、電気と磁気の関係を理解する。
7	電磁誘導と交流	電磁誘導 交流 電磁波	12	磁場の中での導線の起電力、コンデンサーとコイルの電気振動による電磁波の発生現象を考える。
8	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	12	電子の比電荷、電気素量、電子の波動性 X線回折、半導体の性質等を理解する。 光電効果と光量子説との関連、X線発生の原理、粒子と波動の二重性を理解し、ラザフォードの原子模型とボーアの理論により原子の構造と特徴を考える。
9				
10	原子と原子核	原子の構造 原子核と放射線 核反応とエネルギー 素粒子と宇宙	12	原子核の構成、同位体、原子核の崩壊と放射線との関係、核の分裂・融合とエネルギーの変化について考える。
11	問題演習		12	素粒子と宇宙の始まりを理解する。 応用問題に対する力を養う。
12			9	
1			9	
2				
3				

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2単位
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p> <p>3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>				
学習内容の概要	<p>酸化・還元 酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。</p> <p>進路に応じた、問題演習、復習などに取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は化学への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と家庭学習教材を用い就職試験にむけた問題演習等。 視聴覚教材を用いた学習。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「新編 化学基礎」(啓林館) 問題集 「ステップノート化学基礎」(浜島書店)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	酸化還元反応	1. 酸化と還元 2. 酸化・還元と酸化数 3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向	6	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。
5		5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬	8	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。
6	進路対策演習	要点のまとめ・問題演習	8	電気分解について学習し、電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
7				上級学校入試・就職試験対策演習を中心に、進路に応じて実践的な問題演習を行う。
8			8	
9			8	
10			8	
11			8	
12			6	
1			6	
2				
3				

教科名	理科	科目名	化学	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 物質の状態は2年次終了</p> <p>(2) 物質の変化は2年次より継続</p> <p>(3) 無機物質： 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>(4) 有機化合物： 有機化合物を構造の特徴により分類し、性質や反応がその構造と密接に関係していることを個々の化合物を通して学ぶ。</p> <p>(5) 天然有機化合物： 糖・アミノ酸・タンパク質・核酸・酵素について学ぶ。</p> <p>(6) 合成高分子化合物： 代表的な高分子化合物の構造・性質・特徴・分類を学ぶ。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は以下の4項目とする</p> <p>項目1：化学への関心・意欲・態度</p> <p>項目2：思考・判断・表現</p> <p>項目3：技能、</p> <p>項目4：知識・理解</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。</p> <p>身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。</p> <p>個々の進学・進路に応じた演習。</p> <p>小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「化学」(数研出版)</p> <p>問題集 「リードα化基+化学」(数研出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	化学反応の速さとしくみ	反応の速さと濃度、圧力・温度との関係を学ぶ。	9	反応速度について理解し、それを算出できるようになる。触媒のはたらきについて理解する。
5	化学平衡	ルシャトリエの原理、平衡定数について学ぶ。	12	可逆反応と不可逆反応、化学平衡を理解する。平衡定数を理解し量的関係の算出を学ぶ。
	非金属元素	非金属元素の性質や用途を学ぶ。		
6	金属元素 (I)	金属元素の性質や用途を学ぶ。	12	典型元素と化合物について、性質や用途を学ぶ。元素を周期表にもとづいて分類し、単体や化合物の性質を広く学ぶ。金属元素は元素全体の8割を占め、非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目して学習する。遷移元素はすべて金属で、たがいに性質がある程度似ているので、族の分類とは関係なく学ぶほうが現実的である。単体や化合物、イオンなど特徴的な性質をもつものが多く、身近な元素を主体に学ぶ。
	金属元素 (II)	遷移元素と化合物について、性質や用途を学ぶ。		
7	有機化合物の分類と分析	有機化合物の特徴と分類、分析について学ぶ。	6	有機化合物の成分元素、基本構造、有名分子の名称と性質、用途を学ぶ。3つの分類〔C原子の結合(直鎖と側鎖)・飽和と不飽和ベンゼン環の有無〕と構造異性体
8	脂肪族炭化水素	飽和炭化水素、不飽和炭化水素について学ぶ。	6	立体異性体(幾何異性体・光学異性体)を理解する。官能基・構造・製法と置換・付加・脱水と系統理解。アルコールとエーテルの関係に代表される異性体理解。縮合・エステル・加水分解・けん化など反応の理解。
	アルコールと関連物質	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン。	6	
9	芳香族化合物	ベンゼンを出発点とする関連芳香族化合物について学ぶ。	12	代表的な芳香族化合物の製法と系統理解。エステル化アセチル化・ジアゾ化・カップリング反応の理解。定性反応による有機化合物の特定と混合液の分離。
10	天然有機化合物	天然有機化合物の種類について学ぶ。	12	糖とタンパク質について名称・構造・用途の理解。糖類・タンパク質と分解酵素の関係を学ぶ。熱可塑性樹脂(プラスチック)と熱硬化性樹脂を理解し機能性ポリマーの活用例や可能性を学ぶ。
	天然高分子化合物 高分子化合物の性質 合成高分子化合物	糖類とタンパク質について学ぶ。 高分子化合物の構造と性質を学ぶ 合成繊維・合成樹脂について学ぶ。		
11	演習	入試問題や演習問題に取り組む。	12	進路実現をめざしてセンター試験や個別の大学入試問題をはじめ医療系・看護系など理系入試問題に取り組み学習内容の定着と応用力を養い、受験学力を養成する。
12			9	
1			9	

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	選択	
科目の目標	生物や生命現象についての観察、実験などを行い、生物学的に探究する態度と能力を育てるとともに、2年生での内容を継続して学習し、重要な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 分子からみた生命現象 生物体内の化学変化やエネルギー変換を同化と異化を中心にして、それらの様々な生物現象を支えるたんぱく質などの働きも探究し、生命を維持する共通の原理を理解し、生物現象を分子レベルでとらえることができるようにする。</p> <p>(2) 分子から見た遺伝現象 生物の遺伝を遺伝子レベルで学習し、そのはたらきと複雑なその仕組み、将来の可能性などを探求する。</p> <p>(3) 生物の多様性と進化 生物分類と系統及び進化の過程とその仕組みを通して探究し、生物界の多様性と歴史の変遷を理解させ、分類と進化についての見方や考え方を身につける。</p> <p>(4) 生物の集団 生物を集団のレベルでとらえて生物と環境との係わり合いについて理解し、環境問題とからめて自然界における生物集団についての見方や考え方を身につける</p> <p>※後期からは主に大学入試に向けた演習を行う。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は生物への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いて大学入試問題・センター試験対応の問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物」(数研出版)</p> <p>問題集 「リードα生物」(数研出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	生物の多様性と進化 生物の変遷	生物の多様性と分類 生物界の変遷と地球環境の変化	9	生物が共通の祖先からさまざまな種類の生物へ分かれていく進化の流れを学習する。
5	進化とそのしくみ	人類の誕生 進化の証拠	12	進化を示す事実と、進化と遺伝の仕組みとのつながりを学ぶ。
6	生態の分類と系統	エネルギーの流れと物質循環	12	生物群集を構成する生物種の相互作用について学ぶ。
7	生物の集団 生物群集の構造と維持	生物群集の構成	12	
8	生態系とその平衡	生態系での食物連鎖に伴う物質循環やエネルギーの流れ	12	生態系でのエネルギー・炭素・窒素などの流れと、地球環境の保全を考える。
9	問題演習		12	
10			12	センター試験に対応する基礎を固め、大学個別試験などの応用問題に対する力を養う。
11			12	
12			9	
1			9	
2				

教科名	理科	科目名	化学基礎演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p> <p>3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>				
学習内容の概要	<p>※2年次の内容を確認し、進路に応じた演習問題を実施する。</p> <p>酸化・還元 酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は化学への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	<p>教科書 「高等学校 化学基礎」(数研出版)</p> <p>問題集 「ステップノート化学基礎」(浜島書店)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	酸化還元反応 進路対策演習	1. 酸化と還元 2. 酸化・還元と酸化数 3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向 5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬 要点のまとめ・問題演習	6	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。
5			8	酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
6			8	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。
7			8	電気分解について学習し、電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
8			8	上級学校入試・就職試験対策演習を中心に、進路に応じて実践的な問題演習を行う。
9			8	
10			8	
11			8	
12			6	
1			6	
2				

教科名	理科	科目名	生基演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>※（1）生物の特徴・（2）遺伝子とその働きは2年次に学習済。 3年次は（3）から学習</p> <p>（3）生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>（4）生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「改訂版 生物基礎」 (数研出版) 問題集 「リードlight生物基礎」 (数研出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	体内環境と恒常性	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	6	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
5	体内環境の維持の仕組み		8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
6	免疫		8	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
7			8	
8				
9	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	8	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
10			8	
11	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	8	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。
12			6	
1			6	進路に応じた演習に取り組む。
2				
3				

教科名	理科	科目名	生物基礎演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>※2年次に学習内容を再確認し進路に応じた問題演習に取り組む。</p> <p>(1) 生命現象と物質 生命現象を支える物質の働きについて探求し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえる。</p> <p>(2) 生殖と発生 生物の生殖や発生について探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。</p> <p>(3) 生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(4) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎 新訂版」(実教出版) 問題集 「改訂版 アクセスノート 生物基礎」(実教出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	生物の共通性と多様性	生物の多様性と共通性を理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	6	存在する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
5	細胞とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
6	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
7	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
8	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
9	体内環境	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
10	体内環境の維持の仕組み 免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	8	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
11	植生と遷移	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
12	気候とバイオーム	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
1	生態系と物質循環	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
2	生態系のバランスと保全	生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。

※項目毎に進路に応じた演習に取り組む。

教科名	理科	科目名	理科演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	学校設定科目（必修）	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら理科への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、基本的な概念や原理・法則を理解する。 公務員試験・医療看護・食物系入試問題の演習などの入試対策を行う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物基礎（要点の復習と演習）</p> <p>(2) 化学基礎（要点の復習と演習）</p> <p>(3) 地学基礎（要点と復習と演習）</p> <p>※進路に応じた入試問題に取り組む。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、理科への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。</p> <p>身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。</p> <p>個々の進学・進路に応じた演習。</p> <p>小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎」 (啓林館) 問題集「リードlight生物基礎」</p> <p>「化学基礎」 (数研) 問題集「リードlight化学基礎」</p> <p>「地学基礎」 (東書) 問題集「ニューサポート地学基礎」</p> <p>公務員試験・各種専門学校入試問題抜粋</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の変化	原子量・分子量・式量の理解	6	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。物質量とその応用を理解する。
5	物質量と化学反応式	物質量(モルの理解) 化学反応式と量的関係	8	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
6	酸と塩基の反応	酸と塩基の理解	8	酸・塩基の定義を理解する。中和を理解し、塩の分類を学習する。
6	酸化還元反応	酸化と還元を理解	8	酸化・還元の定義を理解する。電池と電気分解を装置をモデル化して理解する
7	遺伝情報と DNA	遺伝子の構造・DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の構造、体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
7	体内環境と恒常性・免疫	体内環境の維持と免疫にかかわる物質や細胞の働きを理解する。	8	循環系・血液・神経系の働きなどで、生物の体内環境が保たれていること、免疫を理解し、体内環境を保つ仕組みを理解する。
8	細胞とエネルギー	細胞および生物の構造、生命活動のエネルギー、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生物・化学・地学の基礎科目を中心に公務員試験・医療・看護系専門学校に応じた演習を行う。
9	植生の多様性と分布	様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	8	気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
10	宇宙の進化	宇宙の構造と進化 太陽と惑星・生命の変遷	8	宇宙誕生の過程と現在の宇宙の構造・太陽系・惑星の形成過程を理解する。
10	地球の変遷	地震・火山・大気・海洋	8	地震の発生・火山のしくみと地球構造・地球規模で大気と海水の循環について考える。
11	私たちの地球生態系とその保全	これからの地球環境と生態系のバランスについての理解し保全の重要性を認識する。	8	生態系の物質とエネルギーの循環・生命活動の関わりを相互に学び、バランスと保全の重要性を理解する。
12			6	※進路に応じた演習問題に取り組む。
1			6	
2				

教科名	保健体育	科目名	体育 (体育)	単位数	3単位
対象学年	第3学年 (普通科・生活教養科)		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <p>① 集団行動 ② 新体力テスト ③ 球技 ④ 運動会練習</p> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <p>① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価のポイント</p> <p>① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断 (表現・創造)・・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単位の実技テスト・自己評価</p> <p>評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>① 教師主導による実技を中心とした学習 ② グループ学習 (場合によっては習熟度別学習を行う)</p>				
教科書・教材等	現代高等保健体育 (大修館)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の 注意事項	2	学校の教育活動全体や体育の授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。 集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	4	
	体づくり運動	トレーニング、ストレッチ、徒身体操	7	
5	新体力テスト	全9種目	8	自己の体力を知り、どのようにして体力を維持増進させていくかを、自分で考え実践していけるようにする。 様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。
6	ニュースポーツ		10.	
7	運動会種目練習	民謡	12	運動と民謡の姿勢の違いを理解させる。 浜村地方に伝わる貝殻節を正しく覚える。 郷土を代表する民謡であり、正しく文化を伝承する一人であることの責任と誇りを持つ。将来長く踊れるように繰り返し練習し習得する。一つの動作に意味があることを理解し、情景を思い浮かべながら作品の受け継がれてきた意義を理解させる。 浴衣の歴史を知り、着物の格を理解させるとともに、洋装についても同様であることを考えさせる。
8				
9	球技	バドミントン	12.	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。 チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにする。
10		卓球	10	攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようにする。 個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。
11		バレーボール ドッジボール	12.	
12		選択種目 バスケットボール	10.	それぞれの運動の特性を理解するために、必要な技術や体力を生と自ら高めていけるように留意する。 互いに協力して練習やゲームができるようにする。
1		卓球	8	
2		バドミントン		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第3学年 (特進)		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 集団行動 ② 新体力テスト ③ ニュースポーツ ④ 運動会種目 ⑤ 球技 ⑥ 選択制授業 <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方 <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようにする。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断（表現・創造）・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単元の実技テスト・自己評価 <p>評価は、各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	教師主導による一斉授業とし、実技を中心とした学習。 グループ学習。（場合によっては習熟度別学習を行う）				
教科書・教材等	『現代保健改訂版ノート』（大修館書店） マイ・スポーツ2010（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	2	学校の教育活動全体や体育の授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。 集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	
	体づくり運動	トレーニング、ストレッチ、徒手体操	4	
5	新体力テスト	全9種目	6	自己の体力を知り、どのようにして体力を維持増進させていくかを、自分で考え実践していきけるようにする。 様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。
	ニュースポーツ			
6	運動会種目練習	ダンス	5	運動と民謡の姿勢の違いを理解させる。 浜村地方に伝わる貝殻節を正しく覚える。 郷土を代表する民謡であり、正しく文化を伝承する一人であることの責任と誇りを持つ。将来長く踊れるように繰り返し練習し習得する。一つの動作に意味があることを理解し、情景を思い浮かべながら作品の受け継がれてきた意義を理解させる。 浴衣の歴史を知り、着物の格を理解させるとともに、洋装についても同様であることを考えさせる。
7		民謡		
8				
9	球技	バドミントン	5	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。 チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにする。
10		卓球	5	
11		バレーボール ドッチボール	10	攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようにする。 個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。 それぞれの運動の特性を理解するために、必要な技術や体力を生と自ら高めていけるように留意する。
12		選択種目	10.	
1		バスケットボール 卓球 バドミントン		
2				互いに協力して練習やゲームができるようにする。

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2単位								
対象学年	第3学年（特進コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必須									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。												
学習内容の概要	<p>生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の言語材料を使つての speaking および writing <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・単語テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各課の読み物の内容を、読む目的を明らかにしながら理解する。 2 各課で取り上げられる文法事項を理解し、場面に応じた使い方を身につける。 3 学習した読み物について、自分の表現を使って retelling や rewriting を行う。 4 ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開する。 												
教科書・教材等	<p>MY WAY English Communication II（三省堂） MY WAY English Communication II WORKBOOK ADVANCED（三省堂） 2018 大学入試センター試験過去問レビュー英語（河合塾） フェイバリット英単語・熟語 コーパス3000（東京書籍）</p>												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 9	Charles Chaplin	6	分詞構文（現在分詞・過去分詞）／完了形の分詞構文／付帯状況の with 喜劇王チャールズ・チャップリンの半生について学ぶ
5	Lesson 10	The Five-story Pagoda of Horyuji	8	同格の that／倒置／省略／強調構文 法隆寺の五重塔の秘密について学ぶ
6	Reading 2	A Letter to Italy	8	登場人物の心情や人間関係を理解しながら読む
7		センター試験・私大対策	8	
8				
9		センター試験・私大対策	8	
10			8	
11		センター試験・私大対策	8	
12		センター試験・私大対策	6	
1		センター試験・私大対策	6	
2		センター試験・私大対策	6	
		センター試験・私大対策		

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4単位
対象学年	第3学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学習内容の概要	<p>1 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。</p> <p>2 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>3 聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>4 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>定期考査 70点 関心・意欲・態度 10点 表現力 10点 知識・理解 10点</p> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使つての表現活動 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 				
学習方法	<p>1 1～2年次の既習事項を確認しながら、重要な新出構文を理解する。</p> <p>2 内容の展開に注意しながら音読をすることで、速読力を高める。</p> <p>3 分からない英語の意味や用法は、辞書を用いて確認する。</p> <p>4 各単元の言語材料を用いて、要約や英作文などの表現活動を行う。</p> <p>5 Note-taking や課題に取り組むことで理解度を深める。</p> <p>6 DUAL SCOPE 総合英語を用いて、文法・語法の理解を深める。</p> <p>7 大学入試センター試験に対応できるよう、実戦的な問題演習に取り組む。</p> <p>8 中学校既出の単語・熟語を含め、4500単語以上を習得する。</p>				
教科書・教材等	<p>Power On Communication Ⅲ（東京書籍） DUAL SCOPE 総合英語（数研出版） フェイスバリット コーパス 3000（東京書籍） 2019 大学入試センター試験過去問レビュー 英語（河合出版）</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Reading Skills 1~2		12	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフと話題文 ・文章の構成
5	Reading Skills 2~6		16	<ul style="list-style-type: none"> ・文を修飾する表現 ・ディスコースマーカー ・未知語の意味の推測
6	Lesson 1	The History of English Tea	16	<ul style="list-style-type: none"> ・紅茶の歴史 ・時間順序の展開を表す語句
	Lesson 2	The Work of “Zoo Dentists		<ul style="list-style-type: none"> ・動物園で働く歯科医の仕事 ・例示の展開を示す語句
7				
8	Lesson 3	Ecotourism: What to Do and Where to Go	16	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムの利点と問題点 ・原因・結果の展開を示す語句
9	Lesson 4	The 10,000-Hour Rule	16	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に名を残す人物が成し遂げた偉業 ・物事を対比する表現
	Lesson 5	Making Contact: The First Four Minutes of an Encounter		<ul style="list-style-type: none"> ・初対面の人との円滑なコミュニケーション ・コミュニケーションのありかたや表現
10	Lesson 6	The Mysterious World of Sleep	16	<ul style="list-style-type: none"> ・人の睡眠の世界 ・説明文の論理構造の特徴
	Lesson 7	The Last Lecture: Messages from Randy Pausch		<ul style="list-style-type: none"> ・ランディ・パウシュ教授の最後の授業とメッセージ ・スピーチで使われる表現や文体の特徴
11	Reading	Baseball and the Facts Of Life	16	<ul style="list-style-type: none"> ・ある少年の経験から学ぶ人生の教訓 ・物語文に特有の文体や論理構造の特徴
12	センター試験 問題演習		16	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験過去問を用いた問題演習
1	センター試験 問題演習		12	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験過去問を用いた問題演習
2	問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・各大学の過去問を用いた問題演習

教科名	英語	科目名	英語表現 I	単位数	3 単位																												
対象学年	第 3 学年（生活教養科）		履修形態	必修																													
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。																																
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな場面のダイアログやモノログを聞き、英語表現を学ぶ。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学びながら、語彙を増やす。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 																																
評価の観点・ 評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">定期考査</td> <td style="text-align: right;">70 点</td> </tr> <tr> <td> 関心・意欲・態度</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> <tr> <td> 表現力</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> <tr> <td> 知識・理解</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> <tr> <td colspan="2">関心・意欲・態度の判断基準</td> </tr> <tr> <td> ・出欠状況</td> <td></td> </tr> <tr> <td> ・学習の取り組み</td> <td></td> </tr> <tr> <td> ・提出物</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">表現力の判断基準</td> </tr> <tr> <td> ・音読</td> <td></td> </tr> <tr> <td> ・既習の言語材料を使っての表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">知識・理解の判断基準</td> </tr> <tr> <td> ・小テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td> ・各種テスト</td> <td></td> </tr> </table>					定期考査	70 点	関心・意欲・態度	10 点	表現力	10 点	知識・理解	10 点	関心・意欲・態度の判断基準		・出欠状況		・学習の取り組み		・提出物		表現力の判断基準		・音読		・既習の言語材料を使っての表現		知識・理解の判断基準		・小テスト		・各種テスト	
定期考査	70 点																																
関心・意欲・態度	10 点																																
表現力	10 点																																
知識・理解	10 点																																
関心・意欲・態度の判断基準																																	
・出欠状況																																	
・学習の取り組み																																	
・提出物																																	
表現力の判断基準																																	
・音読																																	
・既習の言語材料を使っての表現																																	
知識・理解の判断基準																																	
・小テスト																																	
・各種テスト																																	
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 																																
教科書・教材等	<p>SELECT I English Expression New Edition（三省堂） 準拠 ワークブック 補助プリント フェイバリット英単語・熟語 コーパス 1800（東京書籍）</p>																																

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	導入 Lesson 1	アルファベット/品詞/一般動詞 自己紹介	9	・学習に入る前の学習ポイントの確認 現在形：be 動詞／一般動詞
5	Lesson 2 Lesson 3	宇宙で食事 世界へ羽ばたけ！	12	過去形：be 動詞／一般動詞 進行形：現在進行形／過去進行形
6	Lesson 4 Lesson 5	エーゲ海の島へ アイドル	12	未来表現：will / be going to 現在完了形①：継続／経験
7 8	Lesson 6	祭りだ！祭りだ！	12	現在完了形②：完了／現在完了進行形
9	Lesson 7 Lesson 8	未来のエネルギー 世界平和のために	12	助動詞①：can / may 助動詞②： must / have to / should
10	Lesson 9 Lesson 1 0	沖縄美ら海水族館 未来を切り拓く	12	不定詞①：副詞的用法／名詞的用法 不定詞②：形容詞的用法／It ~ to …
11	Lesson 1 1 Lesson 1 2	はやぶさ 2 の挑戦 不思議な絵	12	動名詞 受動態
12	Lesson 1 3 Lesson 1 4	ヒエログリフ 私たちの街にガオー	9	分詞：現在分詞／過去分詞 関係代名詞①：that / who / which
1	Lesson 1 5 Lesson 1 6	書道甲子園 どれが一番？	9	関係代名詞②：what 関係副詞：where / when / why 比較：比較級／最上級／as ~ as …
2	Lesson 1 7 Lesson 1 8	限りある水 ピサの斜塔		知覚動詞／使役動詞 仮定法過去：If ~ / I wish ~

教科名	英語	科目名	英語表現Ⅱ	単位数	3単位								
対象学年	第3学年（特進コースⅠ類・Ⅱ類）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習の取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使った表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーション能力を養うため、実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら英語表現を使って会話する。 2 研修旅行で使用できる英会話表現を使った言語活動を、継続して経験する。 2 補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 6 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 												
教科書・教材等	MY WAY English Expressions II（教育出版） 準拠 ワークブック 補助プリント フェイスリット英単語・熟語 コーパス4500（東京書籍）												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson13	自分の習慣を見直す	9	・ 仮定法を用いたさまざまな表現
	Lesson14	語学学習の新しい方法		・ 間接話法／否定表現
5	Lesson15	エネルギー問題	12	・ 代名詞を用いたさまざまな表現
6	Lesson16	余暇の過ごし方	12	・ 時間構文
7	Lesson17	レイチェル・カーソン	12	・ 無生物主語構文／名詞構文
8				
9	Lesson18	メディアもさまざま	12	・ 譲歩構文
10	Lesson19	化学と技術のこと	12	・ 結果・程度構文／目的構文
11	Lesson20	職業について考える	12	・ 強調表現／同格表現
12	Lesson21	行き方について考えてみよう	9	・ 群動詞／群前置詞
1	まとめ	センター試験対策	9	
2	まとめ	2次試験対策		

教科名	英語	科目名	英語表現Ⅱ	単位数	4単位								
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 英語表現Ⅰの学習を踏まえ、英語による表現力を伸ばす。 2 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。 4 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。 5 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用する。 6 海外高校生との文通を複数回行い、実践的な表現能力を養う。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">定期考査</td> <td style="width: 50%;">60点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問評価 ・学習の取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション・テスト ・レポート <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課の評価問題の成績 ・各種小テスト 					定期考査	60点	関心・意欲・態度	10点	表現力	20点	知識・理解	10点
定期考査	60点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	20点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 2年次迄に学習した基本的な文法事項や構文を復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリントを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 コーパスを使用して語彙力の強化を図る。 4 英会話表現を用いて、自然にコミュニケーションが取れるようにする。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 6 リスニング力向上を目指し、ナチュラルスピードで音読できるようにする。 												
教科書・教材等	Vivid English Expressions II 演習プリント フェイバリット英単語・熟語 コーパス1800（東京書籍）												

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson17 18 For Communication4	将来の自分の目標を英語で話す	12	接続詞の働きを学習する [表現力テスト] 旅行の場面をふまえて「主張する」表現を使ってコミュニケーション活動ができる
5	Lesson19 ～Lesson22 For Communication5	感謝・喜び・謝罪・同情の表現を学ぶ	16	[表現力テスト] レポートの場面をふまえて「要約する」表現を使ってコミュニケーション活動ができる
6	For Fun1 Lesson23 ～Lesson27	助言・依頼・許可・命令の表現を学ぶ	16	旅行・交通の場面を踏まえて「予定・意図」の表現を用いて英語で書くことができる
7			16	
8				
9	Lesson28 ～Lesson32 For Fun2	パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ	16	文化・伝統の場面を踏まえて「比較・対照」のパラグラフを書くことができる
10	Lesson33 ～Lesson37	スピーチの構成・書き方を学ぶ	16	与えられたトピックから選択して英語でスピーチ文を書き、スピーチすることができる
11			16	
12	For Fun3 Lesson38 39	ディスカッションの進め方、用いられる表現を学ぶ	12	与えられたトピックから選択して、英語でディスカッションすることができる
1	Lesson40 文法の整理		12	
2			12	

教科名	英語	科目名	英語会話	単位数	1 単位								
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	選択									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<p>学校生活などの日常的な場面や海外生活における場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたことや読んだこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の言語材料を使っての speaking <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・単語テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各課で取り上げられる基本表現を習得する。 2 CDを用いた Listening により、必要な情報を聞き取る活動を行う。 3 場面や目的に応じて、習得した基本表現を使って会話する。 4 ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開する。 												
教科書・教材等	<p>SELECT English Conversation（三省堂） SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂） 夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	興味のあるものを言う	3	未来表現／不定詞（名詞的用法）
5	Lesson 2	余暇について話す	4	現在形／過去形
	Lesson 3	体調や体調についてのアドバイス話す		助動詞 should
6	亜紀と拓の留学日記1	海外生活・ホームステイ先でのあいさつを学ぶ	4	
	Lesson 4	学校について話す		There is / are ~.
7	Lesson 5	天気・天候について話す	4	助動詞 will
8	Lesson 6	自分の好みを言う		動名詞
9	亜紀と拓の留学日記2	海外生活・ホームステイ先での日常会話を学ぶ	4	
10	Lesson 7	都合をたずねる、待ち合わせをする	4	現在完了形
11	Lesson 8	道をたずねる	4	SVOO の文型
	亜紀と拓の留学日記3	海外生活・学校での会話を学ぶ		
12	Lesson 9	乗り物での行き方をたずねる	3	How long ~?
1	Lesson 10	欲しいものを買う	3	現在進行形／SVC の文型
2	Lesson 11	食事を注文する	4	不定詞（形容詞的用法）
	亜紀と拓の留学日記4	海外生活・観光に必要な会話を学ぶ		
	Lesson 12	誘う、誘いに応じる		Let's ~./ Shall we ~?
3	Lesson 13	なりたい職業について話す	3	Why-Because／不定詞（副詞的用法）

教科名	英語	科目名	英語会話	単位数	1 単位								
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	選択									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<p>学校生活などの日常的な場面や海外生活における場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたことや読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の言語材料を使ってのスピーキングテスト・インタビューテスト <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・単語テスト 					定期考査	60点	関心・意欲・態度	10点	表現力	20点	知識・理解	10点
定期考査	60点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	20点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各課で取り上げられる基本表現を習得する。 2 音読を充実させ、リスニング力を強化する。 3 ALT を用いたリスニングにより、必要な情報を聞き取る活動を行う。 4 場面や目的に応じて、習得した基本表現を使って会話する。 5 ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開する。 												
教科書・教材等	<p>SELECT English Conversation（三省堂） SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂） 夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 7	都合をたずねる、待ち合わせをする	3	現在完了形
5	Lesson 8	道をたずねる	4	S+V+O+O の文型
6	Lesson 9	乗り物での行き方をたずねる	4	How long ~?
7	亜紀と拓の留学	海外生活・学校での会話を学ぶ	4	スピーキングテスト
8	日記3 School Life			
9	Lesson 10	欲しいものを買う	4	現在進行形/SVC の文型
10	Lesson 11	食事を注文する	4	不定詞（形容詞的用法）
11	Lesson 12	誘う、誘いに応じる	4	Let's ~./Shall we ~?
12	Lesson 13	なりたい職業について話す	3	Why-Because/不定詞（副詞的用法）
1	亜紀と拓の留学	海外生活・観光に必要な会話を学ぶ	3	スピーキングテスト
	日記4 School Life			
2	英会話 review	1年のまとめ	3	1年のまとめ

教科名	英語	科目名	コミュⅡ演習	単位数	2単位								
対象学年	第3学年（進学コース）		履修形態	必修									
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。 												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読・スピーキングテスト・インタビューテスト ・既習の言語材料を使っての表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各課に出てくる文構造や文法事項を定着させる。 2 英文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3 音声教材を適切に取り入れ、ネイティブの発音、イントネーション、スピード等に慣れ、リスニング力を高める。家庭学習でもCD等を使い、リスニングの練習をする。 4 音読練習をすることにより、正確な発音、基本的なイントネーションや区切り等を意識し、正しく音読できるようにする。また、音読を通して、理解力、読解力、リスニング力、相手に伝える力を高める。 5 既習事項を使い、書いたり話したりすることによって自分自身のことを相手に伝える能力を養う。 6 単語・熟語の小テストを行ない、語彙力を強化する。 7 補助教材を活用し、予習・復習をする。 8 課題やノートを定期的に確認する。 9 分からない英語の意味や用法は辞書を使って確認する。 10 英検等の検定試験に積極的に挑戦する。 												
教科書・教材等	All Aboard Communication English II（東京書籍） All Aboard Communication English II Workbook 標準編（東京書籍） コーパス 1800												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	文法のまとめ2	間接疑問文 分詞 不定詞	9	間接疑問文 名詞を後ろから説明する分詞 不定詞を含む表現
5	Getting the Necessary Information2	旅程表を見て必要な情報を素早く的確に読み取る	12	目的に応じて読み方を変える
6	Lesson8	Wings of Music (音楽の翼で世界へはばたく)	12	夢を語る 補足説明をする関係代名詞
7	Lesson9	Magic of the Cotswolds (コッツウォルズの魔法)	12	思い出を語る 関係副詞 夢を語る 補足説明をする関係代名詞
8				
9	文法のまとめ3	節 関係代名詞 関係副詞	12	動詞の目的語になる節 補足説明をする関係代名詞 関係副詞
10	Lesson10	Bunraku (文楽)	12	感動を表す 知覚動詞
11	Lesson11	Bitter Truth about Chocolate (甘いチョコレートの苦い現実)	12	引用する 使役動詞 make
12	Lesson12	Hayabusa's Present from Space (はやぶさからの贈り物)	9	訂正する 分詞構文
1	Reading 2	Olivia	9	アニマルセラピーについて自分の考えを述べる
2	文法のまとめ4	知覚動詞 使役動詞 分詞構文	9	知覚動詞について理解する 使役動詞について理解する 分詞構文について理解する

教科名	英語	科目名	コミュⅡ演習	単位数	3単位								
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	必修									
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。 												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使っての表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各課に出てくる文構造や文法事項を定着させる。 2 英文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3 音声教材を適切に取り入れ、ネイティブの発音、イントネーション、スピード等に慣れ、リスニング力を高める。家庭学習でもCD等を使い、リスニングの練習をする。 4 音読練習をすることにより、正確な発音、基本的なイントネーションや区切り等を意識し、正しく音読できるようにする。また、音読を通して、理解力、読解力、リスニング力、相手に伝える力を高める。 5 既習事項を使い、書いたり話したりすることによって自分自身のことを相手に伝える能力を養う。 6 単語・熟語の小テストを行ない、語彙力を強化する。 7 補助教材を活用し、予習・復習をする。 8 課題やノートを定期的に確認する。 9 分からない英語の意味や用法は辞書を使って確認する。 10 英検等の検定試験に積極的に挑戦する。 												
教科書・教材等	All Aboard Communication English II All Aboard Communication English II Workbook 標準編 コーパス 1800												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	文法のまとめ2	間接疑問文 分詞 不定詞	9	間接疑問文 名詞を後ろから説明する分詞 不定詞を含む表現
5	Getting the Necessary Information2	旅程表を見て必要な情報 を素早く的確に読み取る	12	目的に応じて読み方を変える
6	Lesson8	Wings of Music (音楽の翼で世界へはばたく)	12	夢を語る 補足説明をする関係代名詞
7	Lesson9	Magic of the Cotswolds (コッツウォルズの魔法)	12	思い出を語る
8				関係副詞 夢を語る 補足説明をする関係代名詞
9	文法のまとめ3	節 関係代名詞 関係副詞	12	動詞の目的語になる節 補足説明をする関係代名詞 関係副詞
10	Lesson10	Bunraku (文楽)	12	感動を表す 知覚動詞
11	Lesson11	Bitter Truth about Chocolate (甘いチョコレート の苦い現実)	12	引用する 使役動詞 make
12	Lesson12	Hayabusa's Present from Space (はやぶさからの贈り物)	9	訂正する 分詞構文
1	Reading 2	Olivia	9	アニマルセラピーについて自分の考えを述べる
2	文法のまとめ4	知覚動詞 使役動詞 分詞構文	9	知覚動詞について理解する 使役動詞について理解する 分詞構文について理解する

教科名	商業	科目名	ビジネス基礎	単位数	1単位
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 商業の学習ガイダンス 商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。</p> <p>(2) ビジネスとコミュニケーション ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや態度を身に付ける。 ロールプレイングでの実習を通して実践的なビジネスマナーを身に付ける。</p> <p>(3) 経済と流通の基礎 経済の仕組みに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 経済主体の役割や経済を支えるビジネスについて具体的に学び、その重要性について理解を深める。 我が国における経済の歴史について学ぶとともに現代のビジネスに関する現状について理解を深める。 流通に関する仕組みを理解し、現代市場における情報技術を活用した流通やマーケティングの意義について学ぶ。</p> <p>(4) 企業活動の基礎 企業の目的について学び、企業形態や経営組織の種類、特徴について理解を深める。 資金調達の方法や企業が納める税の種類、雇用形態の特徴、企業に求められる倫理に関する基礎的、基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(5) ビジネスと売買取引 売買取引の手順について学び、売買契約の意義や実践的な態度を身に付ける。代金決済の手段と特徴について理解を深め、適切な代金決済を行うための判断力を身に付ける。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 評価は、①関心・意欲・態度、②思考・判断、③技能・表現、④知識・理解の4項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度などで総合的に評価する。</p>				
学習方法	教室で講義形式の授業を基本とするが、ロールプレイング形式での学習も行う。				
教科書・教材等	<p>ビジネス基礎 東京法令出版 ビジネスコミュニケーション検定テキスト 実教出版</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	商業の学習ガイダンス	ガイダンス	1	・商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。
5	ビジネスとコミュニケーション	ビジネスに対する心構え	5	・ビジネスに対する望ましい心構えやビジネスにおける基本的なマナーを身に付ける。
6		人間関係とコミュニケーション	5	・場面に応じたコミュニケーションの取り方やその意義を理解する。
7	経済と流通の基礎	経済の基礎	2	・経済の基本的なしくみや考え方について学ぶ
		ビジネスの発展	5	・経済活動のなかでのビジネスの意義や役割について学ぶ。経済環境の変化に対応する能力を養う。
		流通活動とマーケティング	5	・流通にかかわるビジネスの種類を学び、その役割や仕事の内容について理解する。
10	企業活動の基礎	企業の形態と経営組織	2	・企業の種類、経営組織、起業家精神などの企業経営の基礎知識を学ぶ。
11		資金調達	5	・企業はどのように資金調達するのか。その方法と特徴について理解する。
12		雇用	5	・雇用の形態について学ぶとともに、雇用に関して企業が負う責任について考える。
1		売買取引の方法	2	・売買契約や売買取引の流れなど、売買取引を行うための必要な知識を学ぶ。
2		電子商取引と代金決済	3	・代金決済はどのようになされるかを理解する。
3				

教科名	商業	科目名	情報処理	単位数	1 単位
対象学年	第3 学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身につける。 ・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。 ・表計算ソフトやデータベースソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができる。 				
学習内容の概要	<p>(1) データベースソフトウェア</p> <ol style="list-style-type: none"> ① データベースの特徴とこれをビジネスに活用することの意義を理解する。 ② データベースソフトウェアの構造や整列、検索、抽出などの表の基本操作を学習する。 ③ クエリを用いた抽出、結合、集計、計算などの操作により、データベースから必要な形で取り出して活用する方法を学習する。 ④ 簡単なデータベースのデータを作成する方法を学習する。 ⑤ データベースのデータを報告書形式で印刷して活用する方法を学習する。 <p>(2) ネットワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 情報通信ネットワークの概要と、ビジネスにおけるインターネットの様々な利用方法やその効果について学習する。 ② 情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について学習する。 ③ 電子メールの利用方法について学習する。 ④ ネットワークを利用して収集した情報を編集して報告書を作成する方法を学習する。 <p>(3) モラルとセキュリティ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルや、セキュリティー管理の方法について学習する。 <p>(4) 検定試験への対応</p> <p>7 月 全商ビジネス文書実務検定試験 2 級合格を目指します。</p> <p>9 月 全商情報処理検定試験 2 級合格を目指します。</p> <p>1 1 月 全商ビジネス文書実務検定試験 1 級合格を目指します。</p> <p>1 月 全商情報処理検定試験 1 級合格を目指します。</p> <p>随時実施 P 検協会 P 検タイピング試験合格を目指します。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 評価は、①関心・意欲・態度、②思考・判断、③技能・表現、④知識・理解の 4 項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度・実技テストなどで総合的に評価する。</p>				
学習方法	情報処理教室でパーソナルコンピュータを使い、実習を中心に学習します。				
教科書・教材等	<p>最新情報処理 2 1 新訂版 Business Computing 実教出版</p> <p>ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 1 級 実教出版</p> <p>情報処理検定模擬試験問題集 1 級 実教出版</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	データベースとソフトウェア	・ビジネス情報とデータベース	3	<ul style="list-style-type: none"> データベースの特徴やその種類と仕組みを理解できるようにする。 リレーショナルデータベースの構造や機能を説明できる。 	
5			4	<ul style="list-style-type: none"> データベースの特徴を基に、どのような場面でデータベースを活用すればよいかを具体的に考察できるようにする。 	
6			・データベースの利用	4	<ul style="list-style-type: none"> データベースソフトウェアを構成するオブジェクトの名称と役割を説明できる。 表を用いた整列、検索、抽出などの基本的な操作ができる。
7		・報告書の作成	4	<ul style="list-style-type: none"> データベースから検索したデータを利用しやすい形に編集して伝達することの必要性を理解している。 レポート機能を利用して報告書の作成、編集ができる。 レポートウィザードを利用して集計を含んだ報告書が作成できる。 	
8			4		
9			4		
10		ネットワーク	・情報通信ネットワーク	4	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの概要を理解し、その利点を活用したさまざまな活用方法があることに気付くとともに、自ら積極的に活用する方法を学ぶ。
11			・情報通信ネットワークの利用	4	<ul style="list-style-type: none"> 検索の方法、手順やキーワードなどを工夫して効率的な情報検索をすることができる。 検索したデータをダウンロードして活用することができる。
12			・ネットワークを利用した報告書の作成	3	<ul style="list-style-type: none"> 電子メールを送受信する際の注意点や危険性を理解している。
1	モラルとセキュリティ	・情報化社会の問題点とその対応	3	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報の価値や正確性について正しく判断できる。 適切なアプリケーションソフトウェアを選択して、収集した情報を見やすい形に加工できる。 	
2			3	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータウイルスやコンピュータ犯罪、著作権の侵害、システム事故などの情報化社会の危険性や問題点について具体的に説明することができる。 	

教科名	家庭	科目名	課題研究	単位数	2 単位
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	家庭の各分野に関する課題を設定し、その問題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 調査、研究、実験 (2) 作品製作 (3) 学校家庭クラブ活動 (4) 保育検定取得に向け、基礎的な表現技術を身につける。 の3項目で構成する。</p> <p>興味・関心、進路希望に応じて、内容の(1)から(4)までの中から個人又はグループで適切な課題を設定する。なお、課題は内容の(1)から(4)までの2項目以上にまたがる課題を設定することができる。その際、例えば、「(2) 作品製作」に取り組む前に、用いる材料についての「(1) 調査、研究、実験」を行うなど、2項目以上にまたがる課題を設定することにより一層効果的な学習にすることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>全国高校生ホームプロジェクト（HP）コンクール 全国高校生クリエイティヴコンテスト F H J ー日清製粉グループ全国高校生料理コンクール などに適宜応募</p> </div> <p>* 学習の成果として、文化祭、オープンキャンパスなどで作品を展示する。 * 調査・研究・製作作品等のプレゼンテーションを行う。 * 総合文化祭、または校内で発表する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は、(関心・意欲・態度)、(思考・判断)、(技能・知識)とする。</p> <p>・具体的にはテーマの設定、計画、工夫、創造性。 出席状況、授業態度、準備・観察の記録。実施状況やレポート・作品、検定の結果、自己評価などで総合的に評価する。</p>				
学習方法	家庭科の各科目の学習の中で、各自が課題を発見するとともに、特定の科目にとらわれず、広く自由な発想で課題を設定する。課題解決の方策や、計画、実践にあたっては指導を受けながら主体的に取り組む。				
教科書・教材等					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究とは ・課題研究の取り組み方 ・テーマの設定について 	6	(1) 調査、研究、実験 食生活に関する分野では、食文化と郷土料理、食品の多様化と表示、食事調査と栄養の改善、国際化と世界の料理などの内容。
5	計画・立案 準備・予備調査	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のテーマにそって計画を立てる。 ・資料や材料を整え、予備調査、研究を行う。 	8	福祉（高齢者・乳幼児）に関する分野では、乳幼児の生活と遊び、高齢者の心身の特徴、福祉施設、今後の課題等について調査研究する。
6	研究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のテーマと計画にそって研究活動をすすめる。 ・指導助言を受けながら、自発的、創造的に取り組む。 	8	(2) 作品製作 被服製作や手芸などの作品製作、テーマに基づいた料理づくり、パンやケーキづくり、絵本や遊具づくりなどが考えられる。
7			8	
8		各コンクールに応募する		(3) 学校家庭クラブ活動
9		(応募規定にしたがって個人またはグループごとに応募する。)	8	乳幼児や高齢者などとの継続的な交流活動を行うなどのボランティア活動などが考えられる。
10		応募したものを文化祭で発表できるようにする。	8	
11			8	
	評価・反省			全国高校生ホームプロジェクト（HP）コンクール 全国高校生クリエイティブコンテスト F H J - 日清製粉グループ全国高校生料理コンクール
12	プレゼンテーション	個人・またはグループによるプレゼンテーション準備	6	文化祭・オープンキャンパスでの作品展示
1			6	・校内（生活教養科合同LHR）での発表
2			6	年間の反省点をまとめる。

教科名	家庭	科目名	子どもの発達と保育	単位数	2単位
対象学年	第3学年 (生活教養科 保育コース)		履修形態	必修	
科目の目標	乳幼児の発達と特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。 保育実習を通して、子どもの発達の様子や保育者の指導の様子を理解する。 保育検定に挑戦し、資格取得を目指す。				
学習内容の概要	3章 子どもの生活 1節 生活と養護 2節 子どもの遊び 3節 生活習慣の形成 4節 健康管理と事故防止 4章 子どもの保育 1節 子どもの意義と重要性 2節 家庭保育と集団保育 3節 保育の方法 5章 子どもの福祉 1節 子どもの福祉 2節 子育て支援 *校外学習 (保育園での保育実習) 子ども達の活動の様子・保育者の指導の様子を観察する。				
評価の観点・ 評価の方法	・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) とする。 ・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・作品・学習プリント・ノートの提出状況、保育実習への取り組み状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、定期考査の素点で総合的に評価する。				
学習方法	・乳幼児期が人間の発達の基礎を培う重要な時期であることを理解し、生活の特徴や養護の在り方、生活習慣の形成などを乳幼児との触れ合いなどを通して、実践的・体験的に学習する。				
教科書・教材等	教科書 「子どもの発達と保育」 (実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学習のポイント・評価等
4	第3章 子どもの生活	1. 生活と養護	6	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の意義・特に母乳栄養・人工栄養の違いや特徴をしっかりと理解する。 ・遊びの種類を具体例をもとに理解する。
5		2. 子どもの遊び	8	
6	第4章 こどもの保育	3. 生活習慣の意義	8	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を身につけるための家族や保育者の役割を理解し、子どもの事故防止に努められるようにする。
7		4. 健康管理と事故防止		
8		1. 保育の意義と重要性		
9	第5章 子どもの福祉	2. 家庭保育と集団保育	8	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所・幼稚園・認定子ども園の役割を理解する。 ・児童福祉法の理念は、単に保護を必要とする児童のみならず、広く次代を担うすべての児童の健全育成が目的とされていることを理解する。
10		3. 保育の方法	8	
11	保育検定	1節 子どもの福祉 1 児童福祉の理念 2 児童福祉に関する法律 3 児童福祉のための機関・施設	8	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の形成は、個人差に配慮し、乳幼児の心身の発達の準備状態に合わせて最適の時期を選び、反復練習を行い、自らやる気にさせる働きかけが大切であることを理解する。
12	保育実習	保育検定3級・2級・1級(筆記) ・造形表現 ・言語表現 ・家庭看護技術	8	
1		校外での保育実習	6	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習事前指導(髪・爪などのチェック) ・実習にあたっての諸注意 ・子ども達の活動の様子・保育者の指導の様子を観察する。 ・生活と環境
2		2節 子育て支援 1 社会的支援の必要性 2 児童虐待とその予防 3 これからの子育て支援 4 子育て支援の課題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・育児不安や孤立感を持つ親や家族を支援する体制づくりなどについて認識する。 ・乳幼児に対する親の育児態度、家族関係、地域環境などの影響などについて具体的に考える。

教科名	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>1章 人の一生と生活・健康</p> <p>1節 健康の概念</p> <p>2節 ライフステージと健康管理</p> <p>2章 高齢化の現状と高齢者の特徴</p> <p>1節 高齢化の現状</p> <p>2節 高齢者の心身の特徴と病気</p> <p>3節 高齢者の生活課題と施策</p> <p>5章 介護・看護の実習と生活支援</p> <p>1節 介護の実習</p> <p>2節 看護の実習</p> <p>3節 生活支援</p> <p>4章 高齢者支援の法律と制度</p> <p>1節 社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ</p> <p>2節 介護保険制度</p> <p>3節 高齢者支援と地域包括ケアシステム</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (技能・表現) (知識・理解) とする。 具体的には、以下のとおりである。 *出欠状況 (実技の出席4/5以上を原則とする) *授業態度・実技 (私語、何もしない等授業に不参加の場合、実習点はゼロとする) *課題提出・学習プリントの提出状況、ノート提出等 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容理解とともに、実習等を通して実践的な態度を身につける。 ・日常生活に密接に関係しているため、日々の生活の中から課題を見つけ、解決法を考える。 				
教科書・教材等	教科書「生活と福祉」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等			
4	1章 人の一生と生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康の概念 高齢社会における健康とQOL ライフステージと健康管理 	6	<ul style="list-style-type: none"> QOLやノーマライゼーションという言葉の意味を理解し、自立生活支援の意義と目的を考える。 多職種連携によるチームアプローチの必要性を考えながら生活支援を必要とする人の理解を深める。 			
5			8				
6	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の現状 高齢者の心身の特徴と病気 	8	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の心身の特徴を理解し、具体的事例を通して生活援助の必要性を考える。 			
7	5章 介護・看護の実習と生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活課題と施策 	8	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する。 安心して快適な生活の場とは何か、実生活の中から考える。 			
8					<ul style="list-style-type: none"> 介護の実習 体位変換 歩行介助 	8	<ul style="list-style-type: none"> 体位変換等の実習でボディメカニクスを活用し、重心のかかり方や姿勢を学ぶ。
9					<ul style="list-style-type: none"> 車いすの移乗・移動の介護 	8	<ul style="list-style-type: none"> 車いすの基本操作を理解し、安全に動かすことができる。
10					<ul style="list-style-type: none"> 食事の介護 ベッドメイキング 衣服の着脱 身体の清潔の介護 排泄の介護 	8	<ul style="list-style-type: none"> 安全安楽な食事介護ができるよう介助の仕方を理解する。
11					8	<ul style="list-style-type: none"> おむつを用いた介助を通して、残存能力の活用と自立支援について理解する。 	
12	4章 高齢者支援の法律と制度	<ul style="list-style-type: none"> 看護の実習 生活支援 	6	<ul style="list-style-type: none"> 家庭看護の意義を理解し、家庭で誰でも行えるケアを習得する。 レクリエーションの意義を理解し、個別レクリエーションと集団レクリエーションの援助計画、実施が展開できる。 			
1			6	<ul style="list-style-type: none"> 各種法律や様々なサービスの内容を理解する。 			
2			8	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者におこりやすい事故等を把握し、予防対策や、応急手当の要点などを理解する。 			
3		<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度 	6	<ul style="list-style-type: none"> 街の中のバリアフリーに意識したり、身近な人が利用している福祉サービスに関心を持ち、考えることができる。 			

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2 単位
対象学年	第3学年（生活教養科 保育コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養、食品、献立、調理。テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。 ・食物調理検定を受検し、資格取得に向け実践力を養う。 				
学習内容の概要	<p>(1) フードデザインの構成要素</p> <p>ア 栄養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類及び栄養素の機能と代謝の概要を理解させ、各種の栄養素を過不足なく摂取することの必要性について考える。 ・各年齢、年代における身体的、生理的特徴に基づく栄養と、それを満たす食事構成の概要を理解する。 <p>イ 調理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全でおいしく調理するために必要な知識・技術を養う。 <p>(2) フードデザインの実際（調理実習）</p> <p>ア 食事テーマの設定と献立作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の食品や食品群別摂取量を用いた献立を作成し、実習する。 <p>イ テーブルコーディネートとサービスの実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理に合った配膳、盛り付け、テーブルセッティング、マナーを習得する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は（関心・意欲・態度）（思考・判断）（技能・表現）（知識・理解）とする。 ・具体的には、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、実習に取り組む姿勢・態度、観察の記録、自己評価で、総合的に評価する。 ・実習時にはエプロン・三角巾を着用する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を身につける。 ・実習・検定を通して、衛生・献立作成・準備・基本的調理操作・片付けまで、実践に生かせる能力・技術を身につける。 ・食に関するニュース等から、さまざまな問題に興味・関心を持つ。 				
教科書・教材等	教科書「フードデザイン」（実教出版）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章	・食生活と健康	6	・食事の意義と役割及び食をとりまく現状を理解する
5	第2章 栄養素の働きと 食事計画	・栄養素の種類と働き ・消化と吸収	8	・食物の摂取には、食欲・空腹感など心身の状態が大きく影響していること、摂取した食物が消化吸収され、排泄されるまでの仕組みを理解する。
6			8	
7		・栄養所要量と食事計画	8	・エネルギー所要量と各栄養素所要量について理解し、献立作成に活用できるようにする。
8			8	
9			8	
10	第5章 料理様式とテーブルコーディネート	・ライフステージと食事計画	8	・ライフステージ毎の栄養の特徴、留意事項、特に調理法の工夫について理解する。
11			8	・食品の栄養的特徴などを理解して、日常食の献立作成、調理ができるようにする。 供給食・行事食等の献立作成および調理ができるようにする。
12			6	・加熱やその他の調理操作が料理の出来上がりに大きく影響することを理解し、適切な調理操作ができるようにする。食事のテーマにあったテーブルコーディネートと、サービスの方法を習得する。
1	第6章 フードデザイン 実習	・食品の選択と調理	6	・季節、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、目的に応じた献立作成ができるようにする。
2			6	・作成した献立に適した食品を選択し、食品の調理性をふまえた適切な調理ができるようにする。

教科名	家庭	科目名	食文化	単位数	2単位
対象学年	第3学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	食生活の変遷と文化、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 製作実習 テーブルコーディネートの一環であるランチョンマットの作製を行う。</p> <p>(2) 料理様式とテーブルコーディネート 料理にあった配膳、盛り付け、テーブルセッティング、マナーを習得する。</p> <p>(3) 食文化の伝承と創造 地元の郷土料理を知り、新たな食文化を創造しようとする意欲をもたせる。</p> <p>(4) 調理実習 日常食の献立作成や調理を行う。</p> <p>食物検定3級</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) とする。 ・具体的には、出欠状況、授業態度、課題・作品・学習プリント・ノートの提出状況、家庭クラブ活動への取り組み状況、実習に取り組む姿勢、態度、観察の記録、自己評価で総合的に評価する。 				
学習方法	国際化が進み、情報が豊富な現代、食文化も多様に変化していることを認識して、日常生活でも世界や日本の食文化に関心をもつようにする。				
教科書・教材等					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	食物検定3級	・検定内容の説明	6	<ul style="list-style-type: none"> ・食品群の年齢別、性別、身体活動レベル別食品構成 ・食品の概量と重量を理解する。 ・食品の廃棄率と購入量の計算の仕方を理解する。
5			8	
6			8	
7			8	
8			8	
9			8	
10			8	
11			8	
	料理様式とテーブルコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルコーディネートの料理に合った配膳盛り付けマナー 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境づくりができるようにし、食空間を演出する感性や表現力を養う。
			8	
	食文化の伝承と造像	食品の選択、調理、献立作成	8	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、目的に応じた献立作成ができるようにする。
			6	
			6	
			6	
	調理実習		6	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食の献立作成と調理実習を行う。
通年				

教科名	家庭	科目名	調理	単位数	5 単位
対象学年	第3学年(生活教養科 フードコース)		履修形態	必修	
科目の目標	様式別調理、大量調理などに関する知識と技術を習得させ、健康の維持・増進に寄与する食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>第4章 調理の基本</p> <p>1節 調理とおいしさ</p> <p>2節 調理操作</p> <p>3節 調味操作</p> <p>第5章 料理様式とテーブルコーディネート</p> <p>1節 料理様式と献立</p> <p>1 日本料理の様式と献立</p> <p>2 西洋料理の様式と献立</p> <p>3 中国料理の様式と献立</p> <p>2節 テーブルコーディネート</p> <p>1 テーブルコーディネートとは</p> <p>2 テーブルコーディネートのポイント</p> <p>3 和風のテーブルコーディネート</p> <p>4 洋風のテーブルコーディネート</p> <p>5 中国風のテーブルコーディネート</p> <p>6 室内のコーディネート</p> <p>第6章 フードデザイン実習</p> <p>1節 献立作成</p> <p>1 日常食の献立を考える際の留意点</p> <p>2 日常食の献立作成</p> <p>3 供応食・行事食</p> <p>家庭科技術検定</p> <p>食物調理1級：供応食・行事食等の献立と調理</p> <p>食物調理2級：日常食の献立と調理</p> <p>(年間2回－7月・2月－の検定で1級・2級取得を目標とする)</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は(関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)とする。 ・具体的には、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、実習に取り組む姿勢・態度、観察の記録、自己評価で、総合的に評価する。 ・実習時にはエプロン・三角巾を着用する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を身につける。 ・実習・検定を通して、衛生・献立作成・準備・基本的調理操作・片付けまで、実践に生かせる能力・技術を身につける。 				
教科書・教材等	「フードデザイン」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	・ 献立作成 ・ 1、2級検定問題	食物検定 1、2級	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物検定 1、2級献立作成 洋風献立 中華献立 和式献立 ・ 作成した献立に適した食品を選択し、食品の調理性を踏まえた適切な調理ができるようにする。 ・ 食品の栄養的特徴等を理解して、課題に応じた応用食の献立作成および調理ができる。 ・ 個人個人が作成した献立をもとに、1級の調理実習（検定時間1時間半）を行う。
5		食物検定 1、2級過去問学習	20	
6	食物調理検定 1、2級試験	食物検定 1、2級実習	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常食、行事食、供用食などの調理に必要な知識と技術を習得する。 ・ 季節、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、目的に応じた献立作成ができるようにする。
7		検定	20	
8				
9	調理の基本	調理とおいしさ 調理操作 調味操作	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常よく使用される食品を取り上げ、食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解する。 ・ 調理に関する基礎的な事項や食品群別摂取量の見方を理解するとともに、材料にあった野菜の切り方ができるようにする。
10			20	
			20	
11	料理様式とテーブルコーディネート	料理様式と献立		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境づくりができるようにし、食空間を演出する感性や表現力を養う。
12	テーブルコーディネート	テーブルコーディネートとは	15	
1			15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事を心豊かにおいしく食べるには、どのようにすればよいか。
2			15	
	調理実習 (通年)			<ul style="list-style-type: none"> 和風 洋風 中国風 室内のコーディネート

教科名	家庭	科目名	栄養	単位数	3単位
対象学年	第3学年(生活教養科フードコース)		履修形態	必修	
科目の目標	栄養とは何かを理解し、機能と代謝、消化吸収を理解する。 ライフステージに合わせた献立作成ができる。				
学習内容の概要	第一章 栄養とは 1節 私たちと栄養 2節 人体の構成成分と栄養素 第二章 栄養素の機能と代謝 1節 炭水化物 2節 脂質 3節 たんぱく質 4節 ビタミン 5節 ミネラル 6節 その他の成分 第三章 消化と吸収 1節 食欲 2節 消化と吸収のしくみ 第四章 エネルギー代謝と食事摂取基準 1節 エネルギー代謝 2節 食事摂取基準 第五章 栄養状態の評価 1節 栄養状態の評価と方法 2節 集団の栄養状態の評価 第六章 ライフステージ・ライフスタイルと栄養 1節 乳幼児期の栄養 2節 青少年期の栄養 3節 成人期の栄養 4節 高齢期の栄養 5節 妊娠・授乳期の栄養 6節 労働・スポーツと栄養 第七章 病体と栄養 1節 栄養障害 2節病体時の栄養 3節食事療法 第八章 栄養と調理 1節 調理による栄養成分の変化 2節 調理と消化吸収率 2節 栄養面からみた望ましい献立 第九章 食生活の展望と健康増進 1節 日本人の栄養摂取 2節 食生活と健康増進				
評価の観点・ 評価の方法	・評価の観点は(関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)とする。 ・具体的には、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、自己評価で、総合的に評価する。				
学習方法	・栄養素を理解し、代謝、吸収の過程を理解する。 ・ライフステージに合わせた献立を作成することができる。				
教科書・教材等	教科書「栄養」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 栄養とは	1節 栄養とは 2節 人体の構成成分 と栄養素	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3大栄養素・5大栄養素を理解する。 ・ 人体と構成成分を理解する。
5	第2章 栄養素の機能と 代謝	1節 炭水化物	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種栄養素の種類を理解する。 ・ 栄養素の特徴と体内でののはたらきを理解する。
6		2節 脂質 3節 たんぱく質 4節 ビタミン 5節 ミネラル 6節 その他の成分	12	
7		第3章 消化と吸収	12	
8	第4章 エネルギー代謝 と食事摂取基準	1節 エネルギー代謝	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養バランスのよい食事とは何か。
9		2節 食事摂取基準		
10	第5章 栄養状態の評価	1節 栄養状態の評価 と方法 2節 集団の栄養状態の 評価	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養に偏りのある食事について改善計画を考える。
11	第6章 ライフステージ・ ライフスタイル と栄養	1節 乳幼児期の栄養	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ライフステージの年齢別、性別の栄養摂取量の把握。 ・ 栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる。
		2節 青少年期の栄養		
		3節 成人期の栄養		
		4節 高齢期の栄養		
		5節 妊娠・授乳期の栄養		
		6節 労働・スポーツと 栄養		
12	第7章 病体と栄養	1節 栄養障害 2節 病体時の栄養 3節 食事療法	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養障害とは何かを理解し、偏りのある食事について改善計画を立てる。
1	第8章 栄養と調理	1節 調理による栄養 成分の変化	9	
		2節 調理と消化吸収 率		
		3節 栄養面からみた 望ましい献立		
2	第9章 食生活の展望と 健康増進	1節 日本人の栄養摂 取 2節 食生活と健康増 進	9	

教科名	家庭	科目名	保育技術	単位数	2単位
対象学年	第3学年（生活教養科・保育コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解し、身体を通して表現できる能力と態度を育てる。</p> <p>保育実習を通して、子どもの発達の様子や保育者の指導の様子を理解する。</p> <p>保育検定2級・1級に挑戦し、資格取得を目指す。</p>				
学習内容の概要	<p>*音楽・身体表現活動</p> <p>(1) 身体を使った表現</p> <p>ア 手拍子によるリズム表現</p> <p>イ ボディ・パーカッション</p> <p>(2) 子どものために作られた歌</p> <p>ア わらべうた イ 唱歌</p> <p>ウ 童謡 エ あそび歌</p> <p>(3) 楽器演奏や伴奏</p> <p>ア 器楽</p> <p>イ ピアノによる伴奏</p> <p>(4) 大人と一緒に楽しむ音楽</p> <p>ア CDやDVD</p> <p>イ ミュージカル</p> <p>(5) 楽典基礎</p> <p>*保育検定 ○音楽・リズム表現技術</p> <p>*校外学習（保育園での保育実習）</p> <p>子ども達の活動の様子・保育者の指導の様子を観察する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) とする。 ・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・作品・学習プリント・ノートの提出状況、保育実習への取り組み状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、定期考査の素点で総合的に評価する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期が人間の発達の基礎を培う重要な時期であることを理解し、生活の特徴や生活習慣の形成などを乳幼児との触れ合いなどを通して、実践的・体験的に学習する。 				
教科書・教材等					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1. 楽典基礎	・ 基礎的な音楽通論	6	・ 音楽、リズムに関する基礎的知識、技術
5	2. 歌唱	・ 童謡歌唱	8	・ 発音、発声が適切である。 音程が確かである。 歌詞、リズムが正確である。 ブレスが正確で、抑揚、フレーズ感がある。 歌詞に即してうたっている。
6		・ 童謡弾き歌い	8	・ 音程が確かで歌唱力がある。 歌詞を大切にし表情豊かにうたっている、曲想にあったテンポ、リズムである。 フレーズ感がある。 歌と伴奏のバランスが適切である。
		・ 保育検定2級 ○音楽・リズム表現技術	8	・ 音楽、リズムに関する基礎的知識及びバイエルNo、48～78程度のピアノ演奏の基礎的技術と童謡歌唱による表現技術を検定する。
7	3. 楽器演奏	・ ピアノ実技	16	・ 指先、手の形など打鍵がよい。 それぞれの指が動き独立して適切である。
8				速さや流れが適切である。
9				楽譜を正確に読み取り正しく演奏できる。
10		・ 保育検定1級 ○音楽・リズム表現技術	6	左右のバランスがよく旋律と伴奏の音量が適切である。
11			8	・ 音楽、リズムに関する専門的知識及びバイエルNo79～104程度のピアノ演奏技術と童謡の弾き歌いによる総合的な表現技術を検定する。
12	4. 大人と一緒に楽しむ音楽	・ ミュージカルの鑑賞	6	
1			8	・ ミュージカルの鑑賞を通して、CDやDVD機器の扱い方と適切な活用について考える。
2			6	
3				

教科名	家庭	科目名	コミュニケーション技術	単位数	2単位
対象学年	第3学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	保育検定1、2級合格を目標とし、言語活動、家庭看護技術、造形表現活動に取り組むことで、乳幼児の発達段階を理解し、コミュニケーション技術の向上を図る。				
学習内容の概要	<p>(1) 保育検定3級（実技）（未取得者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造形表現活動：折り紙と描画 ○言語表現技術：紙芝居の実演 ○家庭看護技術：乳幼児の生活の世話（衣類の着脱） <p>(2) 保育検定2級（実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造形表現活動：貼り絵（切り絵、ちぎり絵）による平面構成 ○言語表現技術：絵本の読み聞かせ ○家庭看護技術：乳幼児の生活の世話（清拭、おむつの交換） （筆記）※各種目の基礎的知識 <p>(3) 保育検定1級</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造形表現活動：壁面構成 ○言語表現技術：素話の創作と実演 ○家庭看護技術：乳幼児の生活の世話（けがの手当て） （筆記）※各種目の専門的知識 				
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、（関心・意欲・態度）（思考・判断）（技能・表現）（知識・理解）とする。 ・具体的には、出席状況、授業態度、課題・作品で総合的に評価する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○造形表現活動：素材、用具を適切に用いて、各自がテーマに沿って、工夫しながら作品作りを行う。 ○言語表現技術：紙芝居、絵本の中から、提示された年代にふさわしい作品を選び、正しい言葉や発音で、表情豊かに読む。読み聞かせの正しい方法を知る。 ○家庭看護技術：赤ちゃん人形を用いて、乳児の発達段階や心身の状態に応じた日常の生活の知識や技術を身につける。 				
教科書・教材等					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定3級 ・保育検定2級 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定3級 ○言語表現技術 紙芝居の実演 ○造形表現技術 折り紙と描画 ○家庭看護技術 衣類の着脱 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定3級 ○言語表現技術 紙芝居の選び方や持ち方、読み方 ○造形表現技術
5			8	<ul style="list-style-type: none"> 折り紙が丁寧に折れ、想像豊かな表現か ○家庭看護技術 乳幼児の発達を考慮した関わりか
6			8	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ○言語表現技術 絵本の読み聞かせ ○造形表現技術
7			8	<ul style="list-style-type: none"> 貼り絵 ○家庭看護技術 清拭、おむつの交換
8	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ・保育検定1級 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ○言語表現技術 絵本の読み聞かせ ○造形表現技術 貼り絵 ○家庭看護技術 清拭、おむつの交換 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ○言語表現技術 絵本の選び方や持ち方、話し方 ○造形表現技術 テーマに沿った表現 ○家庭看護技術 用具の点検、適切な言葉かけ、清拭の方法やおむつの交換など ○筆記：基礎的知識
9			8	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定2級 ○言語表現技術 絵本の選び方や持ち方、話し方 ○造形表現技術 テーマに沿った表現
10			8	<ul style="list-style-type: none"> 貼り絵 ○家庭看護技術 用具の点検、適切な言葉かけ、清拭の方法やおむつの交換など
11			8	<ul style="list-style-type: none"> ○筆記：基礎的知識
12		<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定1級 ○言語表現技術 素話の創作と実演 ○造形表現技術 壁面構成 ○家庭看護技術 けがの手当て 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・保育検定1級 ○言語表現技術 各自が選択した対象児にふさわしい話を創作し表現豊かに語る。
1			6	<ul style="list-style-type: none"> ○造形表現技術 身近にある素材を用いて季節や自然をだし、心身の安定や意欲を育むための環境づくりとしての壁面作り ○家庭看護技術 看護の必要さを確認し、用具を適切に用いて怪我の手当てができる ○筆記：専門的知識
2			6	

教科名	キャリア教育	科目名	BUプラン(学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第3学年(総合)		履修形態	選択	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	<p>○一般教養</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学(言語分野が中心) 同意語、反意語、二語の関係、語句の意味、語句の用法、文章理解など 2. 社会科学 地理、政治、経済、時事問題 3. 自然科学(数的分野が中心) 小数・分数、四則演算、割合と比、金銭計算、推論、確率など <p>○郷土理解 鳥取県の地理、歴史、産業などについて理解を深める。</p> <p>○表現力 エッセイ(自らがテーマを設定し、小論文を作成し、発表をおこなう)</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ・・自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付けるために主体的に学び、理解しようとしているか</p> <p>②知識・理解 ・・一般教養や論理的思考力が身に付いたか</p> <p>③技能・表現 ・・習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。</p> <p>定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>①興味・関心を持って授業に取り組む。</p> <p>②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。</p>				
教科書・教材等	<p>○自主作成プリント</p> <p>○ワークシート ほか</p>				

年間授業計画						
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等		
4	一般教養（人文科学） ※特に言語分野	同意語	6	○日常生活の中で目にしたり、会話や文章の中で使用したりするような言葉の意味や用法などを正確に理解する。 ○評論文や小説の文章を正確に読み、味わう。 ○漢字の読み書きに関して、高校卒業レベルまでの理解を目指す。		
5		反意語 二語の関係 語句の意味 語句の用法 文章整序 文章理解	8			
6		漢字の読み 漢字の書き 思想・文化・歴史	8			
7			8			
8		一般教養（社会科学）	地理		8	○時事問題にも気を配りながら、社会のしくみや社会参加の在り方について考える。
9			政治 経済 時事問題			
10						
11	一般教養（自然科学） ※特に数的分野	四則演算 小数・分数 割合と比 損益計算 推論 図形	8	○基本的な計算力や論理的思考力を身に付ける		
12			8			
1	郷土理解	鳥取の地理 鳥取の歴史 鳥取の文化 鳥取の産業 鳥取の自然	6	○郷土である鳥取の特色を多様な角度から眺め、分析し、深く理解することで、郷土愛を深め、自らの生き方を見直すきっかけをつかむ		
2			8			
3	エッセイおよびプレゼンテーション	1年の学びを振り返り、自分でテーマを決定	6	○学習のまとめとして、研究発表を行う。		